MSXView

エムエスエックス・ビュウ

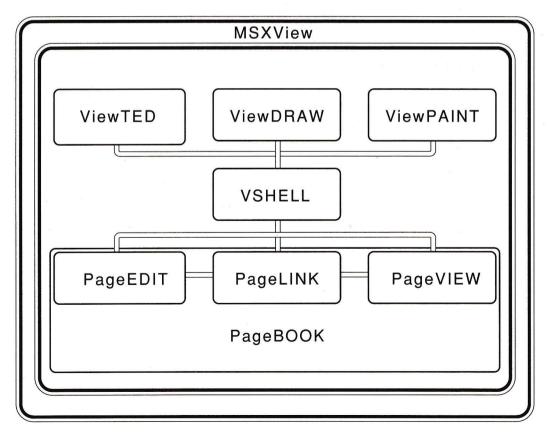
アプリケーションマニュアル

ASCII

目次

第1章　MSXViewとは

MSXViewは視覚的なユーザーインターフェイスを提供するOS（オペレーティングシステム）です。各アプリケーションソフトウェアはマウスだけでも機能のほぼ全てを使用することができます。さらに、その操作環境も統一性を持たせた構成となっています。キーボードによる操作が、ソフト毎に異なるといった使い勝手の悪さもありません。

また、各アプリケーションのデータ形式にも統一性があり、アプリケーションソフトウェアは相互にデータのやり取りができます。ひとつひとつのアプリケーションは簡略化され、機能を絞ってありますが、相互にデータが交換できるため、非常に幅広い応用が可能です。

第2章　アプリケーション

ここではMSXViewアプリケーション全般について説明します。
このマニュアルはMSXViewパッケージに標準添付している6種類のアプリケーションソフトウェアについて説明します。アプリケーションは以下の6本です。

(1) ViewTED（ビュウテッド）
テキストエディタです。
文字の入力編集をするためのソフトで、ワードプロセッサと違い、文字の修飾や行間隔などの設定が無いぶん高速に文字の編集が行なえます。

(2) ViewDRAW（ビュウドロウ）
ベクトル系グラフィックエディタです。
に図形を直線や円の集合として扱います。そのため、描画後の図形の移動や変形ができ、製図や、簡単な地図などを書くことに適しています。

(3) ViewPAINT（ビュウペイント）
ピクセル系グラフィックエディタです。
基本的に図形を点の集合として扱います。そのため、細かい模様や自由曲線が描け、ロゴマークやシンボルのデザインに適しています。

(4) PageBOOK（ページブック）
MSXView上で仮想的な本を作るツール群です。
PageBOOKという名前のソフトウェアはありません。PageEDIT、PageLINK、PageVIEWの3本のソフトウェアの総称です。これらはそれぞれ、以下のような機能を持ち、3本が密接に関連して動作します。

1. PageEDIT（ページエディット）
   1ページ（画面1枚分）を作成編集するソフトウェアです。
   操作はほぼViewDRAWと同じで、ページ移動などのコマンドを埋め込む機能が加わっています。

2. PageLINK（ページリンク）
   ページを連結させるリンクリストを作成編集し、PageVIEWで実行するためのファイルを生成するソフトウェアです。

3. PageVIEW（ページビュウ）
   PageLINKで生成したファイルを解析し実行するソフトウェアです。
   このソフトウェアにより、各ページが画面に表示されます。

第3章　マウスとキーボード

各アプリケーションのマニュアルはマウスで操作することを前提に記載してあります。しかし、マウスの操作と同じことをキーボードでも実行できます。ここではマウスの基本的な操作と、それに対応するキーボード操作を説明します。

●マウスカーソルの移動

マウスを移動してください。画面上の矢印（マウスカーソル）がマウスに合わせて移動します。

キーボードでは GRAPH キーを押したままカーソルキーを押します。

●左ボタン

アイコンやメニューに合わせて押すことで、「選択」の意味を持ちます。マニュアルの記載で「クリック」とあるのは特に記さないかぎり、左ボタンを1回押すことです。

キーボードでは GRAPH + SELECT キーを押します。

●右ボタン

「キャンセル（取消）」を意味します。

キーボードでは ESC キー、又は GRAPH + STOP キーを押します。

●ダブルクリック

マウスの左ボタンを2回すばやく連続で押すことです。アイコンやメニューにマウスカーソルを合わせて押すことで「選択実行」を意味します。

キーボードでは GRAPH + SELECT キーを2回すばやく押します。

●ドラッギング

マウスの左ボタンを押したまま、マウスを移動させることです、テキストの範囲指定などに使用します。左ボタンを放した時点でドラッギング終了です。

キーボードでは GRAPH + SELECT キーを押したまま、カーソルキーで移動します。

はじめに

ViewTED

ViewDRAW

ViewPAINT

PageBOOK

使ってみよう

第1部
ViewTEDについて

第1章　ViewTEDの概要

1.1　ViewTEDとは

「ViewTED」は文字の飾り付けや絵の入力などをいっさい行わず、文字の入力のみを行うためのアプリケーションソフトです。

作成した文章を保存すると、MSX-DOS上のテキストファイルとして保管され、拡張子は「.TXT」となります。MSX-DOS上の他のソフト（MSX-DOS2 TOOLSのKID.COMなど）での読み込みも可能です。

第2章　ViewTEDの起動と終了

起動と終了は大切な操作ですから、実際の文章作成に入る前にしっかり覚えておきましょう。

2.1　ViewTEDの起動

「ViewTED」は、以下の手順で起動します。「ViewTED」のファイル名は「TED」です。

(1)　「VSHELL」を起動します。
起動方法は「VSHELL」マニュアルを参照してください。

(2)　「道具」コマンドバーをクリックします。
MSXView上で動作可能な各ソフトが表示されます。

(3)　「TED」コマンドをクリックします。
「VSHELL」の画面が消え「ViewTED」の画面が起動し、編集画面が表示されます。

2.2　ViewTEDの終了

「ViewTED」を終了し、「VSHELL」に戻ります。
保存または更新をせずに終了すると、文章は消えてしまいますので注意してください。

(1)　「タイトル」コマンドバーをクリックします。
タイトルメニューが表示されます。

(2)　保存（更新）が必要な場合はその処理を行います。

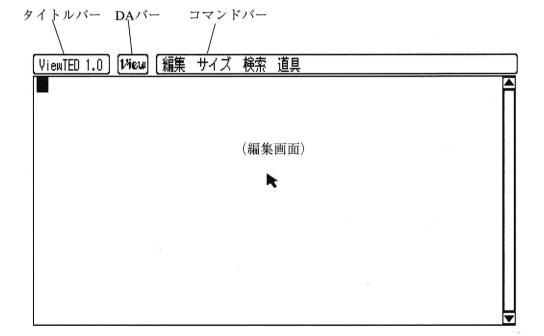
(3)　「終了」コマンドをクリックします。
「終了しますか？」というメッセージダイアログが表示されます。

(4)　「はい」をクリックします。
「ViewTED」の編集画面が消え、「VSHELL」の画面が表示されます。
終了せずにこのまま編集作業を続けるときや保存を忘れたときは「いいえ」クリックすると、再び編集画面に戻ります。

第3章　ViewTEDの画面について

3.1　画面各部の名称

「ViewTED」の画面を見てください。

ViewTEDの画面構成は、メニューバー、編集画面の2つの部分から成り立っています。さらにメニューバーはタイトルバー、デスクアクセサリバー（DAバー）、コマンドバーの3つに分けられます。

3.1.1　タイトルバー

タイトルメニューを表示します。タイトルメニューには読み込みや保存などファイル関係の操作、および印刷、終了を行うメニューがあります。

また、ファイルを読み込んだり、保存したりした場合は、ここにファイル名が表示されます。

3.1.2　デスクアクセサリバー（DAバー）

デスクアクセサリのメニューを表示します。機能的には「VSHELL」のデスクアクセサリと同じです。

3.1.3　コマンドバー

ViewTEDのコマンドメニューを表示します。それぞれのメニューは、現在の状態等によって、実行できる項目が変化します。（文字が灰色で表示されている項目は実行できません。）

3.1.4　編集画面

実際に文書を編集する範囲です。右端にはスクロールバーがあり、テキスト全体に対する現在の表示位置を示します。

第4章　文書の範囲指定

「ViewTED」は、一般的なテキストエディタと異なり、マウスにより編集作業を効率良く行なうことができます。その一つが文書の範囲指定です。
文書に対して何らかの編集を行なうとき、文書の範囲を指定することがあります。ここではその指定の方法を説明します。

(1)　範囲の開始点にカーソルを移動します。

(2)　マウスの左ボタンを押したまま、ドラッギングで範囲の終点までカーソルを移動します。

(3)　マウスのボタンを放します。
指定した範囲が反転表示されます。

これで範囲が指定できました。このまま文字入力を行なうと新たに入力した文字も指定範囲の文字として扱われます。

第2部
リファレンス

第1章　タイトルメニュー

新規　読込 L
保存　更新 S
登録 R　組込 G
印刷 P
終了 Q

作成した文書ファイルの読込、保存、更新のほか、MSXViewアプリケーション間の標準ファイルとして、文字の登録、組込ができます。また、用紙設定や印刷コマンドもここにあります。

メニュータイトル欄には、現在作業中のファイル名が表示されます。新規のファイルの場合は「ViewTED」のバージョンが表示されます。

1.1　新規

現在作成中の文書を全て消し去る機能です。

編集画面をきれいにし、新しく文書を作成するときなどに使います。保存または更新をしないでこの機能を実行すると、入力した文書は消え、再び読み込むことはできません。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
　　「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「新規」をクリックします。
　　画面に「よろしいですか？」と表示されます。
(3)　「はい」をクリックします。
　　編集画面の文書が消えます。
　　「いいえ」をクリックすると、もとの画面に戻ります。

1.2　読込

データディスクに保存されているファイルを編集画面に読み込む機能です。

現在、編集画面に表示されている文書がある場合、保存または更新をしないで読み込みを行なうと、表示されていた文書は消えてしまいます。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
　　「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「読込」をクリックします。
　　画面にウインドウが表示され現在のデフォルトドライブのディスクに入っているファイル名の一覧が表示されます。

(3)　読みたいファイルが入っているドライブのアイコンをクリックします。
画面にウインドウが表示され新しいドライブのディスクに入っている
ファイル名の一覧が表示されます。
(4)　読み込みたいファイル名にマウスカーソルを合わせてクリックします。
ここでダブルクリックをすると（5）の手順まで同時に実行します。
(5)　ウインドウ上の「読込」ボタンをクリックするか、リターンキーを押します。
ウインドウが消え、指定したファイルが編集画面に表示されます。
読み込みを中止する場合は「中止」をクリックします。

1.3　保存

現在画面に表示されている文書をディスクに保存します。この機能は、新しく作成した文書を保存するときや、元のファイルとは別ファイルとして（上書きせずに）保存したい場合に実行します。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「保存」をクリックします。
画面にウインドウが表示されディスクに入っているファイル名の一覧が表示され、文字カーソルが点滅します。
(3)　保存したいディスクが入っているドライブのアイコンをクリックします。
画面にウインドウが表示され新しいドライブのディスクに入っている
ファイル名の一覧が表示されます。
(4)　キーボードからファイル名を入力します。
ファイル名は半角文字で8文字、全角文字では4文字以内です。
(5)　ウインドウ上の「保存」をクリックするか、リターンキーを押します。
ウインドウが消え、文書がディスクに保存されます。
保存を中止する場合は「中止」をクリックします。

1.4　更新

読み込んで修正した文書を、すでに保存されているファイルに上書きします。
保存されていた元の文書は書き換えられてしまいますので注意してください。
新規に作成した文書に対して更新を行なうと、自動的に保存の処理に進みます。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。

(2)　「更新」をクリックします。
読み込みを行ったときと同じファイル名で保存されます。新規で作成したデータの場合は、「保存」と同様に、ファイル名を指定しなければなりません。

1.5　登録

文書の一部を「ViewTED」および他のMSXViewアプリケーション間で組み込める共通ファイルとしてディスクに保存します。保存したファイルは「組込」で読み込むことができます。
この形式で保存されるファイルの拡張子は「. ＃TD」です。

(1)　登録したい文書の範囲を選択します。
(2)　「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「登録」をクリックします。
画面にウインドウが表示されディスクに入っているファイル名の一覧が表示され、文字カーソルが点滅します。
(4)　キーボードからファイル名を入力します。
ファイル名は半角文字で8文字、全角文字では4文字以内です。
(5)　ウインドウ上の「保存」ボタンをクリックするか、リターンキーを押します。
ウインドウが消え、文書がディスクに保存されます。
登録を中止する場合は「中止」をクリックします。

1.6　組込

「登録」を使って保存されたデータを現在編集中の文書に組み込みます。
組み込みができるのは「ViewTED」および他のMSXViewアプリケーションで、「登録」を使って保存したデータのみです。ただし、「ViewPAINT」で登録したデータは組み込むことはできません。

(1)　組み込みをしたい文字位置にカーソルを移動します。
(2)　「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「組込」をクリックします。
画面にウインドウが表示されディスクに入っているファイル名の一覧が表示されます。
(4)　組み込みたいファイル名にマウスカーソルを合わせてクリックします。
ここでダブルクリックをすると(5)の手順まで同時に実行します。

(6)　ウインドウ上の「読込」ボタンをクリックするか、リターンキーを押します。
ウインドウが消え、カーソル位置から文書が表示されます。
組込を中止する場合は「中止」をクリックします。

1.7　印刷

文書を印刷します。
印刷を行なう前にプリンタ設定が行なわれていることを確認してください。設定が行なわれていないと「ファイルがありません」とメッセージが表示され、印刷できません。プリンタ設定については「VSHELL」マニュアルをご覧下さい。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　プリンタの接続や設定を確認し、「印刷」をクリックします。
「用紙をセットしてRETキーを押して下さい」と表示されます。
(3)　用紙がセットされているのを確認してリターンキーを押します。
印刷が実行されます。
印刷が終了するとタイトルメニューの反転が元に戻ります。

1.8　終了

「ViewTED」を終了し、「VSHELL」に戻ります。
保存や更新をしないと文書は消えてしまいますので、注意してください。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「終了」をクリックします。
「終了しますか」と表示されます。
(3)　「はい」をクリックします。
「ViewTED」の画面が消え、「VSHELL」の画面が現れます。
終了したくない場合は「いいえ」をクリックします。

第2章　編集メニュー

消去K　切取X
複写C　貼込V
✓全角A　半角H

入力した文字の複写や切り貼り、入力文字の種類などの編集作業を行ないます。

2.1　消去

指定した範囲の文字を文書から消し去る機能です。

(1)　消去する文字の範囲を指定します。
(2)　「編集」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「消去」をクリックします。
　　指定した文字が消えます。

2.2　切取

指定した範囲の文字を元の位置から削除し、MSX内部に記憶する機能です。
切り取った文字は、他の文字の切取または複写を実行するか、「ViewTED」を終了するまで記憶されており、貼込を行なうことで指定した位置に挿入することができます。
貼込と合わせて使用することで、文書を移動させることができます。

(1)　切り取る文字の範囲を指定します。
(2)　「編集」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「切取」をクリックします。
　　指定した文字が削除され、MSX内部に記憶されます。

2.3　複写

指定した範囲の文字を元の位置から削除せず、MSX内部に記憶する機能です。
切り取った文字は、他の文字の切取または複写を実行するか、「ViewTED」を終了するまで記憶されており、貼込を行なうことで指定した位置に挿入することができます。
貼込と合わせて使用することで、文書を複製することができます。

(1)　複写する文字の範囲を指定します。
(2)　「編集」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「複写」をクリックします。
　　指定した文字がMSX内部に記憶されます。

2.4　貼込

切取や複写でMSX内部に記憶した文字を、カーソル位置に挿入する機能です。
貼込を実行しても、MSX内部に記憶された文字は残っていますので、何度でも貼込で挿入することができます。

(1)　挿入したい位置にカーソルを移動します。
(2)　「編集」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「貼込」をクリックします。
　　MSX内部に記憶された文字が挿入されます。

2.5　全角・半角

入力できる文字には「全角」と「半角」があります。「全角」では漢字を含む全ての文字が入力できます。[かな]キーや[CAPS]キーとの併用で英数字やひらがな・カタカナの切り替えも可能です。
「半角」にすると、入力できる文字は半角の英数字のみになり、[かな]キーが押されていても英数字のみの入力になります。
これらの切り換えを「全角」、「半角」で指定します。
一度指定すると、新たに指定するか「ViewTED」を終了するまで有効です。現在指定されているモードにはチェックマークが表示されます。
「半角」はプログラムの作成などに使用すると便利です。

(1)　「編集」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　希望のモードをクリックします。
　　指定された文字モードで入力することができます。
　　次回、編集メニューを表示させると、指定されているモードの前にチェックマークが付いています。

第3章　「サイズ」メニュー

表示する文字の大きさを指定します。

「ViewTED」では画面上での文字を表示する大きさを表しますので、部分的なサイズの指定はできません。表示する全ての文字の大きさの指定になります。

指定できる文字のサイズは「12×8」「12×12」「16×16」の3種類です。
一度指定すると新たに指定するか「ViewTED」を終了するまで有効です。
現在指定されているサイズにはチェックマークが表示されます。

(1)　「サイズ」コマンドバーをクリックします。
　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。

(2)　希望のサイズをクリックします。
　画面表示が指定した文字サイズになります。
　次回、サイズメニューを表示させると、指定されているサイズの前にチェックマークが付いています。

第4章　検索メニュー

前方検索 >
後方検索 <
置換(確認あり) M
置換(確認なし) N

文書内から指定した文字を捜し出し、その位置にカーソルを移動したり、別の文字に置き換えたりする機能です。

4.1　検索

文書内から指定した文字（検索文字）を捜し出し、その位置にカーソルを移動する機能です。

ただし、検索する方向が単一なので、カーソルの次の文字から文章の最後までを検索する場合には「前方検索」を、カーソル位置から文章の先頭までを検索する場合には「後方検索」を行ないます。

(1)　「検索」をクリックします。
「検索」が反転し、メニューが表示されます。

(2)　カーソルの次の文字から文末までの検索をしたい場合は「前方検索」、カーソルの前の文字から文頭までの検索をしたい場合には「後方検索」をクリックします。
指定ウィンドウが表示され「検索文字」の枠にカーソルが点滅します。

(3)　キーボードから検索する文字を入力します。

(4)　前方検索の場合は「前方」、後方検索の場合は「後方」をクリックします。
検索が開始されます。
クリックの代わりにリターンキーでも実行できます。

(5)　検索文字が見つかると、カーソルが検索された文字の先頭に移動します。また、検索文字が検索範囲内にないときは「見つかりませんでした」とメッセージが表示され、検索が終了します。

4.2 置換

文書内から指定した文字（検索文字）を捜し出し、その文字を別の文字（置換文字）に置き換える機能です。

置換機能には2種類あり、検索文字が見つかる毎に置換するかどうかを確認する逐一置換と、確認を行なわず文書内の全ての検索文字を置換する全置換があります。

逐一置換を行なう場合は「置換（確認あり）」、全置換を行なう場合は「置換（確認なし）」を実行します。

置換を行なう範囲は、カーソルの次の文字から文書の最後までです。

(1) 「検索」をクリックします。
「検索」が反転し、メニューが表示されます。
(2) 逐一置換をする場合は「置換（確認あり）」、全置換を行なう場合は「置換（確認なし）」をクリックします。
指定ウィンドウが表示され、「旧文字列」の欄にカーソルが点滅します。
(3) キーボードから検索する文字を入力します。リターンキーで入力終了です。
「新文字列」の枠にカーソルが点滅します。
(4) キーボードから置き換える文字を入力します。
(5) 「置換」をクリックします。
確認なしの場合は、自動的に全ての検索文字を置換し、検索文字がなくなると置換を終了します。検索文字がない場合には「見つかりませんでした」と表示して置換を終了します。
クリックの代わりにリターンキーでも実行できます。
(6) 確認ありの場合は、検索文字が見つかるとカーソルが検索文字に移動し、文字が反転して確認ウィンドウが表示されます。
(7) 置換を行なう場合は、「はい」をクリックします。
置換を行ない、次の検索文字を捜し出します。
置換を行なわない場合は、「いいえ」をクリックします。
置換を行なわずに次の検索文字を捜し出します。検索文字がなくなるまで（6）（7）を繰り返します。
カーソル位置以降の置換を行なわない場合は「中止」をクリックします。
(8) 検索文字がなくなると「見つかりませんでした」と表示し、置換を終了します。

第5章　道具メニュー

「VSHELL」を経由せずに、直接他のアプリケーションを起動します。作成したデータを、すぐに他のアプリケーションで利用したい場合に便利な機能です。ただし、保存、または登録の処理を忘れないよう、十分注意して下さい。

(1)　「道具」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　起動したいアプリケーションをクリックします。
　　「終了しますか」と表示されます。
(3)　「はい」をクリックします。
　　「ViewTED」の画面が消え、選択したアプリケーションが起動されます。終了したくない場合は「いいえ」をクリックします。

第3部
キー対応

第1章　メニューキー

次に示す各キーは、メニューバーの機能の呼び出しに対応しています。
「PageEDIT」の場合、次のように割り当てられています。

SELECT　タイトルメニュー
STOP　デスクアクセサリメニュー
F1　編集メニュー
F2　サイズメニュー
F3　検索メニュー
F4　道具メニュー

第2章　ショートカットキー

ショートカットキーとは、GRAPH キーと一緒に押すことで、メニューバーの機能をプルダウンメニューの操作なしに実行するものです。

ViewTEDの場合次の用に割り当てられています。

○「タイトル」メニュー

読込	GRAPH + L
更新	GRAPH + S
登録	GRAPH + R
組込	GRAPH + G
印刷	GRAPH + P
終了	GRAPH + Q

○「編集」メニュー

消去	GRAPH + K
切取	GRAPH + X
複写	GRAPH + C
貼込	GRAPH + V
全角	GRAPH + A
半角	GRAPH + H

○「サイズ」メニュー

12×8	GRAPH + 1
12×12	GRAPH + 2
16×16	GRAPH + 3

○「検索」メニュー

前方検索	GRAPH + >
後方検索	GRAPH + <
置換（確認あり）	GRAPH + M
置換（確認なし）	GRAPH + N

○ダイアログ

はい	GRAPH + Y
いいえ	GRAPH + N

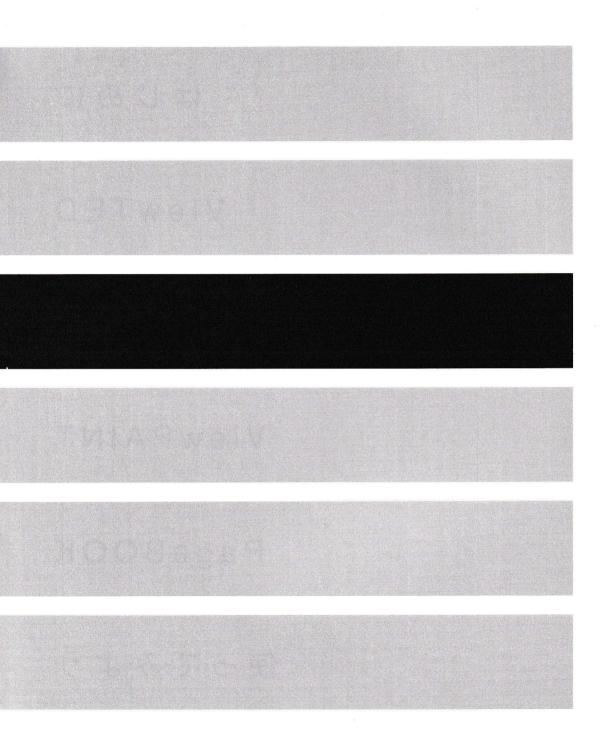
はじめに

ViewTED

ViewDRAW

ViewPAINT

PageBOOK

使ってみよう

第1部
ViewDRAWについて

第1章　概要

「ViewDRAW」は、設計図やラベル、スケジュール表のフォームなど、大きさや縦横の比率を正確に描くのに適したグラフィックエディタです。コンピュータの中にある仮想的な定規や四角形、円などのテンプレートを使って描いていきます。一度描いたものは「オブジェクト」になります。例えば、3種類の大きさの円を描いても、ひとつひとつの円は独立したオブジェクトであり、描いた後からでも、自由に大きさや、位置を変えることができます。また「ViewDRAW」では入力された文字もオブジェクトとして扱われ、様々な書体やサイズに変更できます。

「ViewDRAW」には次のような特徴があります。

1. 正確な作図
   正確な作図が行ないやすいように、画面に方眼を表示します。これを基準に大きさや長さを決めてください。図形を描くポイントも画面上で確認でき、位置ずれを防止できます。全部で12種類の方眼を用意しています。
2. 図形編集
   一度作成した図形は何度でも移動、複製、拡大縮小ができます。また、複数の図形の重ね合わせの順番を変えることもできます。
3. 豊富な線種やパターン
   線の太さや、矢印、塗りつぶす面のパターンなどを豊富に用意しています。もちろん図形を描いた後でも簡単に修正できます。
4. 書体やサイズの変更
   図形と同じく、テキストのハンドリングに優れています。7種類の書体、10種類の大きさ、11種類のフォント（英文字）の中から自由に組み合わせて多彩な表現を得ることができます。

各種ラベルやカードから、ポップなど「ViewDRAW」を利用すると、これまでのグラフィックスアプリケーションでは難しかったり手間がかかっていた仕事を簡単に行なえます。また、間取りや建物の略図、地図などを描く簡易CADとしても利用できます。

第2章　ViewDRAWの起動と終了

2.1　「ViewDRAW」の起動

「ViewDRAW」は、以下の手順で起動します。「ViewDRAW」のファイル名は「DRAW」です。

(1)　「VSHELL」を起動します。
起動方法は「VSHELL」マニュアルを参照してください。

(2)　「道具」コマンドバーをクリックします。
MSXView上で動作可能な各ソフトが表示されます。

(3)　「DRAW」コマンドをクリックします。
「VSHELL」の画面が消え「ViewDRAW」の画面が起動し、編集画面が表示されます。

2.2　ViewDRAWの終了

「ViewDRAW」を終了し、「VSHELL」に戻ります。
保存または更新をせずに終了すると、文章は消えてしまいますので注意してください。

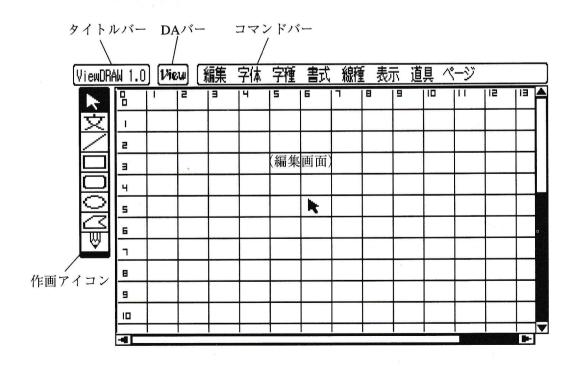
(1)　「タイトル」コマンドバーをクリックします。
タイトルメニューが表示されます。

(2)　保存（更新）が必要な場合はその処理を行います。

(3)　「終了」コマンドをクリックします。
「終了しますか？」というメッセージダイアログが表示されます。

(4)　「はい」をクリックします。
「ViewDRAW」の編集画面が消え、「VSHELL」の画面が表示されます。終了せずにこのまま編集作業を続けるときや保存を忘れたときは「いいえ」クリックすると、再び編集画面に戻ります。

第3章　ViewDRAWの画面について

ViewDRAWの画面構成は、メニューバー、作画アイコン、編集画面の3つの部分から成り立っています。さらにメニューバーはタイトルバー、デスクアクセサリバー、コマンドバーの3つに分けられます。

3.1　タイトルバー

タイトルメニューを表示します。タイトルメニューには読み込みや保存などファイル関係の操作、および印刷、終了を行うメニューがあります。

また、ファイルを読み込んだり、保存したりした場合は、ここにファイル名が表示されます。

3.2　デスクアクセサリバー

デスクアクセサリのメニューを表示します。機能的には「VSHELL」のデスクアクセサリと同じです。

3.3　コマンドバー

ViewDRAWのコマンドメニューを表示します。それぞれのメニューは、現在の編集画面の状態や、次に述べる作図アイコンの状態等によって、実行できる項目が変化します。（文字が灰色で表示されている項目は実行できません。）

3.4　作画アイコン

図形を描いたり、選択したりするツールが入っています。使いたいツールをマウスでクリックすると、そのアイコンの色が反転し、選ばれたことを示します。

3.5　編集画面

実際に図形を描く範囲です。

第2部
リファレンス

第1章　作図アイコン

直線、円、四角形を描くツール、テキストの入力位置（テキストブロックと呼びます）を決めるツール、オブジェクトを選択するツールなどがあります。

1.1　セレクトツール

どの図形に対して、編集や変更を行なうかを指定します。

描いてある図形をこのアイコンでクリックすると「ラバーバンド」と呼ぶ長方形が画面に表示されます。

他のツールを使用した後でマウス右ボタンを2回クリックすると、この「セレクトツール」にもどります。

1.1.1　複数図形の選択

複数の図形の選択方法には2通りあり、選択したい図形の周りをセレクトツールで四角く囲む方法と、SHIFT キーを押したまま図形上でクリックする方法があります。

1.1.2　図形の移動

表示されたラバーバンドの内側をマウスカーソルでクリックすると、図形が移動できます。

(1)　セレクトアイコンをクリックします。
　　セレクトアイコンが反転表示されます。
(2)　移動させたい図形をクリックします。
　　図形の周りにラバーバンドが表示されます。

(3)　ラバーバンドの内側をクリックします。
　　ラバーバンドが枠線に変わり、マウスの移動に合わせて移動します。
(4)　希望の位置に移動させたら、もう一度クリックします。
　　クリックした位置でラバーバンドが固定され、図形が移動します。

1.1.3　図形の変形

ラバーバンドには8個のマークがついており、マークをクリックすることでラバーバンドを変形することが出来ます。

(1)　セレクトアイコンをクリックします。
　　セレクトアイコンが反転表示されます。
(2)　変形させたい図形をクリックします。
　　図形の周りにラバーバンドが表示されます。
(3)　マークのいずれかをクリックします。
　　ラバーバンドが枠線に変わり、マウスの移動に合わせて変形します。
(4)　枠線を変形させたら、もう一度クリックします。
　　クリックした位置でラバーバンドが固定され、図形が変形します。

1.2　テキストツール

文字領域を指定して、キーボードから文字入力を行うツールです。

(1)　テキストアイコンをクリックします。
　　テキストアイコンが反転表示されます。
(2)　セレクトツール操作の要領で文字領域を指定します。
　　文字カーソルが表示されます。キーボードから文字を入力して下さい。
　　文字の入力方法については、「VSHELL」マニュアルをご覧下さい。
　　この状態でラバーバンドをクリックすると、文字領域の大きさを変えることができます。
(3)　右クリックする。
　　ラバーバンドが消え、文字入力が終了します。

[注] 文字領域が小さすぎると文字が表示されません。領域を大きくするか、文字の大きさを変えてください。

1.3 直線ツール

マウスで2点を指定して、線分を引くツールです。

(1) 直線アイコンをクリックします。
直線アイコンが反転表示されます。
(2) 線の始点でクリックします。
ラバーバンドが表示されます。
ここで右クリックすると、中止することができます。
(3) 終点の位置を決めてクリックします。
線が引かれます。

1.4 四角形ツール

マウスで対角線の2点を指定して長方形を描くツールです。

(1) 四角形アイコンをクリックします。
四角形アイコンが反転表示されます。
(2) 描きたい長方形の1頂点でクリックします。
枠線が表示されます。
ここで右クリックすると、中止することができます。
(3) 長方形の大きさが決まった所でクリックします。
長方形が描かれます。

1.5 R型四角形ツール

マウスで対角線の2点を指定して角の丸い長方形を描くツールです。
使用方法は、四角ツールと同じです。

1.6 楕円ツール

四角ツールの要領で外接長方形を指定して、楕円（円）を描くツールです。

(1) 楕円アイコンをクリックします。
楕円アイコンが反転表示されます。
(2) 描きたい楕円の外接長方形の1頂点でクリックします。
楕円枠線が表示されます。
ここで右クリックすると、中止することができます。
(3) 楕円の形と大きさが決まった所でクリックします。
楕円が描かれます。

1.7　多角形ツール

マウスで次々に点を指定してゆき、それらの点を結ぶ多角形を描くツールです。

(1) 多角形アイコンをクリックします。
多角形アイコンが反転表示されます。
(2) 多角形の頂点を次々にクリックします。
直線ツールを連続使用するような感覚で操作して下さい。
ここで右クリックすると、そこまでの操作を取り消すことができます。
(3) 最後の頂点で2回クリックします。
最初の頂点と最後の頂点が結ばれて、多角形が描かれます。
頂点の数は最大16点です。

1.8　エンピツツール

最大32×32ドットのビットマップイメージを作成します。
ビットマップとは点の集まりで図形を表したものです。

(1) エンピツアイコンをクリックします。
鉛筆アイコンが反転表示されます。
(2) ビットマップイメージを作成したい位置をクリックします。
ダイアログボックスが表示され、作成するサイズを入力します。
(3) ビットマップエディタのウィンドウが開き、編集ができるようになります。
マウスカーソルでクリックしたドットが反転します。
「反転」をクリックすると編集範囲の全ドットが反転します。
「消去」をクリックすると編集範囲に全ドットを消去します。
(4) 作業が終了したら、「設定」をクリックします。
編集画面にビットマップイメージが表示されます。
編集したビットマップイメージを破棄する場合は「中止」をクリックします。

[注] ビットマップイメージは、ラバーバンドをクリックしても変形できません。

第2章　タイトルメニュー

作成した図形ファイルの読込、保存、更新のほか、MSXViewアプリケーション間の標準ファイルとして、図形や文字の登録、組込ができます。また、用紙設定や印刷コマンドもここにあります。

メニュータイトル欄には、現在作業中のファイル名が表示されます。新規のファイルの場合は「ViewDRAW」のバージョンが表示されます。

新規　読込 L
保存　更新 S
登録 R　組込 G
追加読込
印刷形式
印刷 P
終了 Q

2.1　新規

現在編集画面に表示されている図形を全て消去するコマンドです。

編集画面をきれいにして、新しく作成し始めるときに使用します。保存を行わずに、このコマンドを実行すると、描いた図形は消え、再び表示させることはできなくなります。使用する可能性のある図形については、保存（または更新）を行ってください。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
　　「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「新規」をクリックします。
　　画面に「よろしいですか？」と表示されます。
(3)　「はい」をクリックします。
　　編集画面の図形が消えます。
　　「いいえ」をクリックすると、もとの画面に戻ります。

2.2　読込

ディスクに保存してある図形を読み込みます。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。

(2)　「読込」をクリックします。
画面にウインドウが表示され現在のデフォルトドライブのディスクに入っているファイル名の一覧が表示されます。

(3)　読みたいファイルの入っているドライブのアイコンをクリックします。
画面にウインドウが表示され新しいドライブのディスクに入っているファイル名の一覧が表示されます。

(4)　読み込みたいファイル名にマウスカーソルを合わせてクリックします。
ここでダブルクリックをすると（5）の手順まで同時に実行します。

(5)　ウインドウ上の「読込」ボタンをクリックするか、リターンキーを押します。
ウインドウが消え、指定したファイルの図形が編集画面に表示されます。
読み込みを中止する場合は「中止」をクリックします。

2.3　保存

現在編集画面に表示されている図形をディスクに保存するコマンドです。

このコマンドは、新しく作成した図形を保存するときや、読み込んだ図形でも、元のファイルとは別ファイルとして（上書きせずに）保存したいときに実行します。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。

(2)　「保存」をクリックします。
画面にウインドウが表示されディスクに入っているファイル名の一覧が表示され、文字カーソルが点滅します。

(3)　読みたいファイルの入っているドライブのアイコンをクリックします。
画面にウインドウが表示され新しいドライブのディスクに入っているファイル名の一覧が表示されます。

(4)　キーボードからファイル名を入力します。
ファイル名は半角文字で8文字、全角文字では4文字以内です。

(5)　ウインドウ上の「保存」をクリックするか、リターンキーを押します。
ウインドウが消え、図形がディスクに保存されます。
保存を中止する場合は「中止」をクリックします。

2.4 更新

ディスクから読み込んで修正した図形を、すでに保存されているファイルに上書きするコマンドです。保存されていた元の図形は書き換えられてしまうので、書き換えたくないときは、更新ではなく、保存を選んでください。

(1) 「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2) 「更新」をクリックします。
読み込みを行ったときと同じファイル名で保存されます。新規で作成したデータの場合は、「保存」と同様に、ファイル名を指定しなければなりません。

2.5 登録

指定した図形をMSXViewの各アプリケーション共通のファイル形式（MSXView標準形式）で保存します。

作成した図形の一部分をパーツとして1つのファイルとして保存したい場合や、「ViewDRAW」で作成した図形やテキストを「ViewPAINT」や「ViewTED」の中で使用したい場合に実行します。

この形式で保存されるファイルの拡張子は「.#DR」です。

(1) 登録したい図形をセレクトツールで選択します。
(2) 「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(3) 「登録」をクリックします。
画面にウインドウが表示されディスクに入っているファイル名の一覧が表示され、文字カーソルが点滅します。
(4) キーボードからファイル名を入力します。
ファイル名は半角文字で8文字、全角文字では4文字以内です。
(5) ウインドウ上の「保存」ボタンをクリックするか、リターンキーを押します。
ウインドウが消え、図形がディスクに保存されます。
登録を中止する場合は「中止」をクリックします。

2.6 組込

「ViewDRAW」や「ViewTED」、「ViewPAINT」で登録したファイルを読み込み、「ViewDRAW」の編集画面に表示させます。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
　　「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「組込」をクリックします。
　　画面にウインドウが表示されディスクに入っているファイル名の一覧が表示されます。
(3)　組み込みたいファイル名にマウスカーソルを合わせてクリックします。
　　ここでダブルクリックをすると（4）の手順まで同時に実行します。
(4)　ウインドウ上の「読込」ボタンをクリックするか、リターンキーを押します。
　　ウインドウが消え、指定したファイルの図形のラバーバンドが編集画面に表示されます。
(5)　表示する位置が決まったらクリックします。指定された位置に図形が表示されます。
　　組込を中止する場合は「中止」をクリックします。

2.7　追加読込

現在画面に表示しているページに、別の図形ファイルから読み込みます。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
　　「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「読込」をクリックします。
　　現在表示しているページに既にオブジェクトがある場合は、「このページでいいかな」と表示されます。現在画面に表示しているページに読み込むときは「はい」を選びます。
　　画面にウインドウが表示され現在のデフォルトドライブのディスクに入っているファイル名の一覧が表示されます。
(3)　読みたいファイルが入っているドライブのアイコンをクリックします。
　　画面にウインドウが表示され新しいドライブのディスクに入っているファイル名の一覧が表示されます。
(4)　読み込みたいファイル名にマウスカーソルを合わせてクリックします。
　　ここでダブルクリックをすると（5）の手順まで同時に実行します。
(5)　ウインドウ上の「読込」ボタンをクリックするか、リターンキーを押します。
　　ページ指定ダイアログが表示されます。
(6)　読み込むファイルの何ページ目を追加するのかページ番号で指定します。ウインドウが消え、指定したファイルの図形が編集画面に表示されます。
　　読み込みを中止する場合は「中止」をクリックします。

2.8 印刷形式

印刷するための用紙サイズを選択します。

(1) 「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。

(2) 「印刷形式」をクリックします。
設定ダイアログが表示されます。

(3) 使用する用紙に合わせてサイズ名と用紙名をクリックします。
サイズ名や用紙名の前の丸の中に黒丸が表示されます。

(4) 「設定」をクリックします。
編集画面も選択した用紙サイズに変わります。
設定を中止する場合は「中止」をクリックします。

2.9 印刷

画面上の図形を印刷します。

(1) 「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。

(2) 「印刷」をクリックします。
設定ダイアログが表示されます。

(3) 特定のページだけを印刷するときはページ番号を指定します。
印刷部数も指定できます。

(4) 「印刷」をクリックします。
「用紙をセットしてください」とダイアログが表示されます。
ここでクリックするか、リターンキーを押すとプリントアウトが始まります。

2.10 終了

「ViewDRAW」を終了して、「VSHELL」の画面にもどります。

保存を行わずにこのコマンドを実行すると、描いた図形は消え、再度表示させることができなくなります。

今後も使用する可能性のある図形については、保存（または更新）を行ってください。

(1) 「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。

(2) 「終了」をクリックします。
「終了しますか」と表示されます。

(3) 「はい」をクリックします。
「ViewDRAW」の画面が消え、「VSHELL」の画面が現れます。終了したくない場合は「いいえ」をクリックします。

第3章　編集メニュー

描いた図形の、削除やコピー、複数の図形の前後関係の調整やグループ化のためのコマンドがあります。効率の良い図形編集に欠かせない機能ばかりです。

復元 Z	消去 K
切取 X	貼込 V
複写 C	複製 D
前出 <	後送 >
合体 +	分離 −
文字枠詰 F	
ビットマップ H	
総選択 A	

3.1　復元

最後に実行した作画、または編集コマンドを取り消します。復元コマンド自身も対象なので、2回続けて実行すると最初の復元コマンドが復元され、何もしないのと同じ結果になります。ただし、「消去」された図形は復元できません。

(1)　「編集」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「復元」をクリックします。
　　最後の作画、または編集コマンドが取り消されます。

3.2　消去

「セレクトツール」で選択し、ラバーバンドを表示している図形を削除します。

(1)　セレクトツールで消去する図形を指定。
　　ラバーバンドが表示されていない状態では、消去コマンドは選択できません。
(2)　「編集」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「消去」をクリックします。
　　指定された領域が消去されます。
　　一度消去した図形は復元できませんから、注意してください。

3.3　切取

「セレクトツール」で選択し、ラバーバンドを表示している図形を切り取ります。

「消去」と異なり、切り取った図形は消えてしまうのではなく、MSXのメモリに記憶しています。しかし、連続して「切取」を行なうと最後に切り取った図形だけが残り、それ以前の図形は失われます。

切り取った図形は、同じ編集画面上に貼り付けたり、別の図形ファイルに貼り付けたりできます。

(1)　セレクトツールで切り取る図形を指定します。
　　ラバーバンドが表示されていない状態では、切取コマンドは選択できません。
(2)　「編集」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「切取」をクリックします。
　　指定された図形が画面から消え、貼込データとして保持されます。

3.4　貼込

「切取」、「複写」した図形を用紙に描画します。

繰り返し「貼込」を実行すると、同じ図形を多数作れます。

(1)　「編集」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「貼込」をクリックします。
　　貼込データの大きさの枠線が表示されます。
　　ここで右クリックすると、中止することができます。
(3)　データを表示する位置が決まったらクリックします。
　　指定された位置に貼込データが表示されます。

3.5　複写

「セレクトツール」で選択し、ラバーバンドを表示している図形を本体のメモリに記憶します。画面の図形には、影響ありません。

連続して「複写」を行なうと最後に複写した図形だけが残り、それ以前の図形は失われますから注意してください。

(1)　セレクトツールで複写する図形を指定します。
　　ラバーバンドが表示されていない状態では、複写コマンドは選択できません。
(2)　「編集」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「複写」をクリックします。
　　指定された図形が貼込データとして保持されます。

3.6　複製

「セレクトツール」で選択し、ラバーバンドを表示している図形と同じ図形を、現在の画面にもうひとつ表示します。表示された図形にはラバーバンドが付き、元の図形からはラバーバンドが消えます。

(1)　セレクトツールで複製する図形を指定します。
　　ラバーバンドが表示されていない状態では、複製コマンドは選択できません。
(2)　「編集」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「複製」をクリックします。
　　指定された図形が画面上に表示され、ラバーバンドが表示されます。

3.7　前出

「セレクトツール」で選択し、ラバーバンドを表示している図形を一番手前に出します。
複数の図形が重なり合っている場合、後ろ側の図形を前に移動したいことがあります。後ろ側の図形を、「セレクトツール」で選択したら、「前出」を選んでください。後ろ側にあった図形が、一番手前に表示されます。

(1)　セレクトツールで前に出す図形を指定します。
　　ラバーバンドが表示されていない状態では、前出コマンドは選択できません。
(2)　「編集」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「前出」をクリックします。
　　指定された図形が一番手前に表示されます。

3.8 後送

「セレクトツール」で選択し、ラバーバンドを表示している図形を一番後ろに送ります。

「前出」とは反対に、複数の図形が重なり合っている場合、前側の図形を一番後ろに送ります。前側の図形を、「セレクトツール」で選択したら、「後送」を選んでください。

(1) セレクトツールで後に送る図形を指定します。
ラバーバンドが表示されていない状態では、後送コマンドは選択できません。
(2) 「編集」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3) 「後送」をクリックします。
指定された図形が一番奥に表示されます。

3.9 合体

画面に描いた複数の図形を、ひとつの図形にまとめます。

「セレクトツール」でまとめたい複数の図形を選択します。「合体」を選ぶと、それまで個々の図形に表示されていたラバーバンドが消え、複数の図形の外側にひとつのラバーバンドを表示します。合体した図形は、ひとつの図形のように編集でき、移動や拡大・縮小はまとめて行なうことができます。

(1) セレクトツールで合体させる図形を指定します。
ラバーバンドが表示されていない状態では、合体コマンドは選択できません。
(2) 「編集」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3) 「合体」をクリックします。
指定された図形がひとつの図形にまとめられ、ラバーバンドもひとつだけの表示になります。

3.10 分離

「合体」した図形をもとの別々の図形にもどします。

「セレクトツール」で合体した図形を選択します。「分離」を選ぶと、ひとつにまとめられていた図形が、もとの別々の図形となり、ラバーバンドが表示されます。

(1)　セレクトツールで分離させる図形を指定します。
ラバーバンドが表示されていない状態では、分離コマンドは選択できません。
(2)　「編集」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「分離」をクリックします。
ひとつにまとめられていた図形が、もとの別々の図形となり、ラバーバンドが表示されます。

3.11　文字枠詰

「テキストツール」で入力した文字数や文字の大きさに合わせて、文字枠を拡大・縮小します。

入力した文字に合わせて、自動的に文字枠の大きさを調整してくれます。

ただし、リターンキーを押して改行したテキストになっている場合、および使用している用紙の幅以上に1行が長いとき、改行後の部分は表示されず、先頭から最初の改行までしか表示しません。

(1)　セレクトツールで枠詰めする文字枠を指定します。
文字枠にラバーバンドが表示されていない状態では、文字枠詰めコマンドは選択できません。
(2)　「編集」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「文字枠詰め」をクリックします。
文字枠が内容の1行目の大きさに変形します。

3.12　ビットマップ

「セレクトツール」で選択し、ラバーバンドを表示している図形の、ビットマップデータ化を行ないます。

ビットマップ化された図形は移動以外の編集はできなくなります。

(1)　セレクトツールでビットマップ化する図形を指定します。
ラバーバンドが表示されていない状態では、ビットマップコマンドは選択できません。
(2)　「編集」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「ビットマップ」をクリックします。
指定した図形がビットマップ化されます。

3.13 総選択

現在画面に表示しているすべての図形を選択します。

どのツールを使用しているときでも、「総選択」を選ぶと現在画面に表示しているページにある図形を全て選択した状態にして、ラバーバンドを表示します。

(1) 「編集」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。

(2) 「総選択」をクリックします。
編集画面の全ての図形にラバーバンドが表示されます。

3.14 総解除

現在画面に表示されている全ての図形を非選択状態にします。

どのツールを使用しているときでも、「総解除」を選ぶと現在選択され、ラバーバンドの表示されている図形からラバーバンドをとり、選択されている図形がない状態にします。

(1) 「編集」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。

(2) 「総解除」をクリックします。
編集画面の全ての図形からラバーバンドが取り去れわれます。

第4章　字体メニュー

入力したテキストの字体を変えます。

太字、斜体、影、下線などの飾り付けが6種類、文字サイズが8～32ドットまで10段階用意してあります。

それぞれ、現在選択されている項目の前に、チェックマークが付きます。

飾付

✓なし N　太字 B
斜体 I　輪郭 O
影 W　下線 U
縞

サイズ

8　10　✓12
14　16　20
24　28　32
12x8

4.1　飾付

入力した文字に「太字」、「斜体」、「輪郭」、「影」、「下線」、「縞」の全部で6種類の飾り付けができます。初期設定は「なし」です。

一度選択した飾り付けは、新たに指定するまで有効です。ひとつの文字枠に複数の飾り付けを行なうことはできますが、一文字ごとに飾り付けを変えることはできません。

(1)　セレクトツールで字体を変えたい文字枠を選択します。

(2)　「字体」コマンドバーをクリックします。
メニューが表示されます。チェックマークのある飾り付けが設定されています。

(3)　変更したい項目をクリックします。
チェックマークが付いていたら消え、消えていたら付きます。文字枠内の文字は、設定された飾り付けに従って書き直されます。
「なし」に設定された場合は、全ての飾り付けが解除されます。
メニューは1回毎に閉じるので、複数の設定をしたい時は、繰り返し操作して下さい。

4.2 サイズ

文字サイズ（文字の大きさ）は、ドット単位で全部で10種類用意してします。初期設定は「12」ドットです。

(1) セレクトツールで字体を変えたい文字枠を選択します。
(2) 「字体」コマンドバーをクリックします。
メニューが表示されます。チェックマークのあるサイズが設定されています。
(3) 変更したいサイズをクリックします。
文字枠内の文字は、設定されたサイズに従って書き直されます。
文字サイズを変更したために、文字枠から表示が消えてしまったときは、「セレクトツール」で文字枠の大きさを調整するか、「編集」メニューから「文字枠詰」を選んで調整します。

第5章　字種メニュー

入力したテキストの文字種を変えます。全部で11種類の文字種がありますが、ひらがな、カタカナ、漢字に使用できるのは、標準字種（12）、標準字種（16）、ROM（12×8）の3種類です。全角の英数字は、残りの8種類を含めた全文字種が対応しています。好みのタイプフェイスをお使いください。

カッコ内の数字はドット数です。

現在選択されている文字種の先頭にチェックマークが付きます。

かな・漢字および半角文字を含む文字枠のフォントを英文字専用のフォントに変えた場合、意味のない文字の羅列となってしまいます。

✓標準字種(12)	標準字種(16)
ROM(12x8)	EUROPE(16)
EUROPE(24)	NASA(16)
NASA(24)	NEWYORK(16)
NEWYORK(24)	EGYPT(16)
EGYPT(24)	

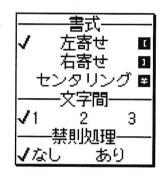
(1)　セレクトツールで字種を変えたい文字枠を選択します。

(2)　「字種」コマンドバーをクリックします。
　　メニューが表示されます。現在のフォントにはチェックマークが付いています。

(3)　設定したいフォント名をクリックします。
　　文字枠内の文字は、指定されたフォントに従って書き直されます。
　　字種を変更したために、文字枠から表示が消えてしまったときは、「セレクトツール」で文字枠の大きさを調整するか、「編集」メニューから「文字枠詰」を選んで調整します。

第6章　書式メニュー

入力したテキストの位置揃え、文字間隔、禁則処理を設定します。位置揃え、文字間隔ともに３種類用意しました。禁則処理の有無を指定すれば、読みやすいテキスト表示が行なえます。

いずれも現在選択されている項目の前にチェックマークが付きます。

6.1　書式

文字枠内の各行に表示する位置を指定します。「センタリング」、「左寄せ」、「右寄せ」の３種類から選びます。初期設定は「左寄せ」です。

※異なる「書式」を設定してある複数の文字枠を選択した場合、「書式」メニューにチェックマークは表示されません。

(1)　セレクトツールで書式を変える文字枠を選択します。

(2)　「書式」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。

(3)　「センタリング」、「右寄せ」、「左寄せ」のどれかをクリックします。
　　文字枠内の文字が選択した書式に変わります。

6.2　文字間

文字と文字との間隔を1から3ドットの間で調整します。ドット数が多きいほど、文字と文字の間隔は開きます。初期設定は「1」です。

(1)　セレクトツールで書式を変える文字枠を選択します。

(2)　「書式」コマンドバーをクリックします。
　　メニューが表示されます。

(3)　「1」、「2」、「3」のどれかをクリックします。
文字枠内の文字が選択した文字間に変わります。
文字間を調整したことで、文字枠から内容が欠けたり消えてしまったときは、「編集」メニューから「文字枠詰」を選ぶか、「セレクトツール」を使って文字枠の大きさを調整します。

6.3　禁則処理

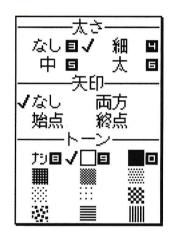
禁則処理を行なうかどうかを指定します。初期設定は「なし」です。

行頭に句読点（、。）や受けのカッコ（」｝など）を表示しないようにして、読みやすい文書として表示する処理を「禁則処理」といいます。日常読む本や新聞では、この「禁則処理」が行なわれています。

(1)　セレクトツール」で、禁則処理を変更する文字枠を選択します。
(2)　「書式」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「禁則あり」、「禁則なし」のどちらかをクリックします。
文字枠内の文字が選択した禁則に変わります。
禁則処理を変えたことで、文字枠から内容が欠けたり消えてしまったときは、「編集」メニューから「文字枠詰」を選ぶか、「セレクトツール」を使って文字枠の大きさを調整します。

第7章　線種メニュー

作図アイコンを選択して描いた図形の線の太さ、矢印の方向、塗りつぶしのパターンを設定します。円や四角形については、線の太さと塗りつぶしのパターン（トーン）を指定できます。また、直線については、線の太さと矢印の方向を指定できます。

いずれも現在選択されている項目の前にチェックマークが付きます。

7.1　太さ

「直線」、「四角形」、「R型四角形」、「円」の各ツールで描いた図形の線の太さを調整します。「なし」、「細」、「中」、「太」の4種類から選びます。初期設定は、「細」です。

「なし」を選択した場合、図形の周囲に線は表示されません。「トーン」から塗りつぶしのパターンで図形を塗りつぶし、周囲の線を消したいときに使います。

(1)　セレクトツールで線の太さを変えたい図形を選択します。
(2)　「線種」コマンドバーをクリックします。
　　メニューが表示されます。
(3)　使用したい線の太さをクリックします。
　　メニューが消え設定されます。

7.2　矢印

「直線」ツールで描いた直線に矢印を付けます。「なし」、「両方」、「始点」、「終点」の4種類から選択します。初期設定は、「なし」です。

(1) セレクトツールで矢印を付けたい直線を選択します。
(2) 「線種」コマンドバーをクリックします。
　　メニューが表示されます。
(3) 使用したい矢印の種類をクリックします。
　　一度付けた矢印を取り除きたいときは、矢印の付いた直線を「セレクトツール」で選択し、「矢印」から「なし」を選んでください。

7.3　トーン

「四角形」、「R型四角形」、「円」ツールで描いた図形の中を塗りつぶすパターンを選びます。「ViewDRAW」は「なし」を含めて12種類のパターンを用意しています。初期設定は「白」です。

図形を描く前に選択しておくと、各ツールで図形を描くと同時に内側が塗りつぶされます。

一度描いた図形を塗りつぶしたり、塗りつぶしのパターンを変更するときは、まず、「セレクトツール」で塗りつぶす図形を選びます。ラバーバンドが表示された状態で、「トーン」の種類を選んでください。

選択した塗りつぶしパターンの先頭にはチェックマークが付きます。

(1) セレクトツールでトーンを付けたい図形を選択します。
(2) 「線種」コマンドバーをクリックします。
　　メニューが表示されます。
(3) 使用したいトーンをクリックします。
　　メニューが消え設定されます。

第8章　表示メニュー

レイアウト表示では、現在画面にある用紙全体を縮小画面で表示します。図形の位置関係やバランスを確認するのに便利です。

格子幅は、画面表示の方眼の密度を変えます。描きたい図形に合ったものに変更してお使いください。方眼は画面に表示されるだけで印刷されることはありません。現在選択されているサイズの前にチェックマークが付きます。

レイアウト
セル数
格子幅

0	2	3
✓ 4	5	6
7	8	9
10	12	14

8.1　レイアウト表示

現在画面に表示しているページ全体を縮小して表示します。プリントアウトしたときの、レイアウトやバランスを確認するのに便利です。

画面には、1ページ内の一部分しか表示できません。編集途中で、バランスやイメージを確認したいときは、「表示」メニューから「レイアウト表示」を選んでください。

もとの編集画面にもどるには、左右どちらかのマウスボタンをクリックします。

[注] レイアウト表示は、全ての図形を縮小して表示しますが、縮小のための計算は整数演算を使用しています。そのため、図形の位置が微妙に違ったり、文字枠内に表示される文字数が、実際とは異なる場合がありますが、実際の印字には影響ありません。

8.2　セル数

現在表示されているページにいくつのセルが存在するか表示します。

「ViewDRAW」では、透明なシートの上に描かれた図形を、重ね合わせて表示しています。このシートのことを「セル」と呼び、一枚のセルには一つの図形だけが存在できます。1ページには256枚のセル (図形) が表示できます。

「セル数」を選ぶと、現在のページで使用しているセル数と未使用のセル数が表示されます。

8.3　格子幅

画面に一定間隔の方眼（マス目）を表示します。方眼の種類は、「0」から「14」まで12種類用意してあります。初期設定は、「4」です。

格子（グリッド）を使うと、図形の縦横比を揃えたり、直線の長さを調整する作業が簡単に行なえます。方眼のサイズを変更するときは、「表示」メニューの「格子幅」から格子サイズを選びます。選択した格子サイズの前には、チェックマークが付きます。

方眼の表示をやめたいときは、格子サイズ「0」を選びます。編集途中で「格子幅」を変えても編集中の図形に影響はありません。

第9章　道具メニュー

「VSHELL」を経由せずに、直接他のアプリケーションを起動します。作成したデータを、すぐに他のアプリケーションで利用したい場合に便利な機能です。ただし、保存、または登録の処理を忘れないよう、十分注意して下さい。

(1)　「道具」コマンドバーをクリックします。
　　メニューが表示されます。
(2)　起動したいアプリケーションをクリックします。
　　「終了しますか」と表示されます。
(3)　「ViewDRAW」の画面が消え、選択したアプリケーションが起動されます。終了したくない場合は「いいえ」をクリックします。

第10章　ページメニュー

「ViewDRAW」は編集できる画面を10枚持っています。これをページと呼び、数枚の画面を一度に編集できます。ページを移動する場合にこの機能を使います。

表示ページを変更しても、それまで表示されていたページの図形には影響ありま

せん。

(1)　「ページ」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　移動したいページの番号をクリックします。
　　メニューが消え、ページが移動します。

第3部
キー対応

第1章　メニューキー

次に示す各キーは、メニューバーの機能の呼び出しに対応しています。
「ViewDRAW」の場合、次のように割り当てられています。

SELECT	タイトルメニュー
STOP	デスクアクセサリメニュー
F1	編集メニュー
F2	字体メニュー
F3	字種メニュー
F4	書式メニュー
F5	線種メニュー
F6	表示メニュー
F7	道具メニュー
F8	ページメニュー

第2章　ショートカットキー

ショートカットキーとは、GRAPHキーと一緒に押すことで、メニューバーの機能をプルダウンメニューの操作なしに実行するものです。

「ViewDRAW」の場合次の用に割り当てられています。

○「タイトル」メニュー

読込	GRAPH + L
更新	GRAPH + S
登録	GRAPH + R
組込	GRAPH + G
印刷	GRAPH + P
終了	GRAPH + Q

○「編集」メニュー

復元	GRAPH + Z
消去	GRAPH + K
貼込	GRAPH + V
切取	GRAPH + X
複写	GRAPH + C
複製	GRAPH + D
前出	GRAPH + <
後送	GRAPH + >
合体	GRAPH + +
分離	GRAPH + −
文字枠詰	GRAPH + F
ビットマップ	GRAPH + H
総選択	GRAPH + A

○字体メニュー

なし	GRAPH + N
太字	GRAPH + B
斜体	GRAPH + I
輪郭	GRAPH + O
影	GRAPH + W
下線	GRAPH + U

○書式メニュー

左寄せ	GRAPH + [
右寄せ	GRAPH +]
センタリング	GRAPH + ¥

○線種メニュー

太さ　なし	GRAPH + 3
太さ　細	GRAPH + 4
太さ　中	GRAPH + 5
太さ　太	GRAPH + 6
トーン　なし	GRAPH + 8
トーン　白	GRAPH + 9
トーン　黒	GRAPH + 0

○表示メニュー

セル数	GRAPH + E

○確認ダイアログ

はい	GRAPH + Y
いいえ	GRAPH + N

第1部
ViewPAINTについて

第1章　概要

ViewPAINTはドット単位で図形を描く、グラフィックエディタです。コンピュータ内部の仮想的な定規やテンプレートを使って絵を描いていきます。

ViewPAINTはMSXView標準ファイルをサポートしております（登録･組込）ので、MSXViewの標準的な全てのアプリケーションに応用できます。

「ViewPAINT」には、次のような特長があります。

1. 1画面分の白黒ビットマップエディタ。
   「ViewPAINT」では、図形は全てビットマップとして扱われます。ドット単位の細かい作業が可能です。また、色情報は持ちません。
2. 拡大モードで作画することが可能。
   ドット単位の絵を描画するためには、細かい作業が必要です。「ViewPAINT」では拡大モードをサポートし、一部分を拡大したまま編集することが出来ます。
3. ポイント指定が容易なクロス（十字）カーソル。
   作画領域内のマウスカーソルは、一般的な矢印カーソルではなく、描画ポイントを的確に確定できる十字型カーソルになっています。

「ViewPAINT」は、単体でもMSXViewの道具として使用できますが、「ViewDRAW」や「PageBOOK」のビットマップエディタとして、使用することでシステム全体のクオリティを向上させることが出来るグラフィックエディタです。

第2章　ViewPAINTの起動と終了

2.1　ViewPAINTの起動

「ViewPAINT」は、以下の手順で起動します。「ViewPAINT」のファイル名は「PAINT」です。

(1)　「VSHELL」を起動します。
起動方法は「VSHELL」マニュアルを参照してください。

(2)　「道具」コマンドバーをクリックします。
MSXView上で動作可能な各ソフトが表示されます。

(3)　「PAINT」コマンドをクリックします。
「VSHELL」の画面が消え「ViewPAINT」の画面が起動し、編集画面が表示されます。

2.2　ViewPAINTの終了

「ViewPAINT」を終了し、「VSHELL」に戻ります。
保存または更新をせずに終了すると、図形は消えてしまいますので注意してください。

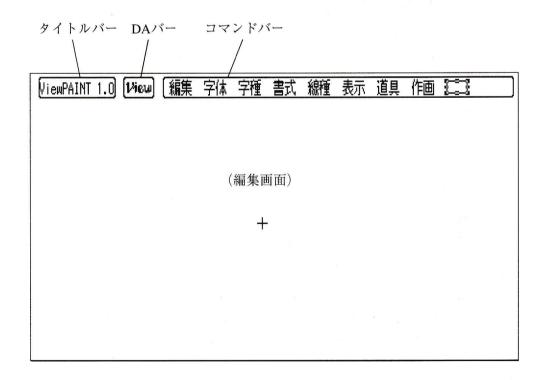
(1)　「タイトル」コマンドバーをクリックします。
タイトルメニューが表示されます。

(2)　保存（更新）が必要な場合はその処理を行います。

(3)　「終了」コマンドをクリックします。
「終了しますか？」というメッセージダイアログが表示されます。

(4)　「はい」をクリックします。
「ViewPAINT」の編集画面が消え、「VSHELL」の画面が表示されます。終了せずにこのまま編集作業を続けるときや保存を忘れたときは「いいえ」クリックすると、再び編集画面に戻ります。

第3章　ViewPAINTの画面について

ViewPAINTの画面構成は、メニューバーと編集画面の2つの部分から成り立っています。さらにメニューバーはタイトルバー、デスクアクセサリバー、コマンドバーの3つに分けられます。

3.1　タイトルバー

タイトルメニューを表示します。タイトルメニューには読み込みや保存などファイル関係の操作、および印刷、終了を行うメニューがあります。

また、ファイルを読み込んだり、保存したりした場合は、ここにファイル名が表示されます。

3.2　デスクアクセサリバー

デスクアクセサリのメニューを表示します。機能的には「VSHELL」のデスクアクセサリと同じです。

3.3　コマンドバー

ViewPAINTのコマンドメニューを表示します。それぞれのメニューは、現在の編集画面の状態や、次に述べるツールアイコンの状態等によって、実行できる項目が変化します。（文字が灰色で表示されている項目は実行できません。）

3.4　編集画面

実際に図形を描く範囲です。原寸表示モードの時は、スクロールはありません。（拡大表示モードに入ると、右側にスクロールバーが表示され、スクロールが可能になります。）

第2部
リファレンス

第1章　タイトルメニュー

作成した図形ファイルの読み込み、保存、更新のほか、MSXViewアプリケーション間の標準ファイルとして、図形や文字の登録、組み込みが出来ます。

メニュータイトル欄には、現在作業中のファイル名が表示されます。新規ファイルの場合は「ViewPAINT」のバージョンが表示されます。

新規	読込 L
保存	更新 S
登録 R	組込 G
印刷	P
終了	Q

1.1　新規

現在編集画面に表示されている図形を全て消去するコマンドです。

編集画面をきれいにして、新しく作成し始めるときに使用します。保存を行わずに、このコマンドを実行すると、描いた図形は消え、再び表示させることはできなくなります。使用する可能性のある図形については、保存（または更新）を行ってください。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
　　メニューが表示されます。
(2)　「新規」をクリックします。
　　画面に「よろしいですか？」と表示されます。
(3)　「はい」をクリックします。
　　編集画面の図形が消えます。
　　「いいえ」をクリックすると、もとの画面に戻ります。

1.2　読込

ディスクに保存されているファイルを読み込み編集画面上に表示させるコマンドです。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
　　「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。

(2)　「読込」をクリックします。
画面にウインドウが表示され現在のデフォルトドライブのディスクに入っているファイル名の一覧が表示されます。
(3)　読みたいファイルが入っているドライブのアイコンをクリックします。
画面にウインドウが表示され新しいドライブのディスクに入っているファイル名の一覧が表示されます。
(4)　読み込みたいファイル名にマウスカーソルを合わせてクリックします。
ここでダブルクリックをすると（5）の手順まで同時に実行します。
(5)　ウインドウ上の「読込」ボタンをクリックするか、リターンキーを押します。
ウインドウが消え、指定したファイルの図形が編集画面に表示されます。拡大モードで実行した場合は、いったん原寸モードの画面になり、読み込み終了後、拡大モードに戻ります。
読み込みを中止する場合は「中止」をクリックします。

1.3　保存

現在編集画面に表示されている図形をディスクに保存するコマンドです。
このコマンドは、新しく作成した図形を保存するときや、読み込んだ図形でも、元のファイルとは別ファイルとして（上書きせずに）保存したいときに実行します。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「保存」をクリックします。
画面にウインドウが表示されディスクに入っているファイル名の一覧が表示され、文字カーソルが点滅します。
(3)　保存したいディスクが入っているドライブのアイコンをクリックします。
画面にウインドウが表示され新しいドライブのディスクに入っているファイル名の一覧が表示されます。
(4)　キーボードからファイル名を入力します。
ファイル名は半角文字で8文字、全角文字では4文字以内です。
(5)　ウインドウ上の「保存」をクリックするか、リターンキーを押します。
ウインドウが消え、図形がディスクに保存されます。
保存を中止する場合は「中止」をクリックします。

1.4 更新

ディスクから読み込んで修正した図形を、すでに保存されているファイルに上書きするコマンドです。保存されていた元の図形は書き換えられてしまうので、注意が必要です。

(1) 「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2) 「更新」をクリックします。
読み込みを行ったときと同じファイル名で保存されます。新規で作成したデータの場合は、「保存」と同様に、ファイル名を指定しなければなりません。

1.5 登録

指定した図形をMSXViewの各アプリケーション共通のファイル形式（MSXView標準形式）で保存します。

作成した図形の一部分をパーツとして1つのファイルとして保存したい場合や、「ViewPAINT」で作成した図形を「ViewDRAW」の中で使用したい場合に実行します。ただし、文字データでも「ViewTED」に組み込むことはできません。

この形式で保存されるファイルの拡張子は「.#BT」です。

(1) 登録したい図形をセレクトツールで選択します。
(2) 「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(3) 「登録」をクリックします。
画面にウインドウが表示されディスクに入っているファイル名の一覧が表示され、文字カーソルが点滅します。
(4) キーボードからファイル名を入力します。
ファイル名は半角文字で8文字、全角文字では4文字以内です。
(5) ウインドウ上の「保存」ボタンをクリックするか、リターンキーを押します。
ウインドウが消え、図形がディスクに保存されます。
登録を中止する場合は「中止」をクリックします。

1.6 組込

「ViewPAINT」や「ViewDRAW」で登録したファイルを「ViewPAINT」の編集画面に表示させます。

[注] 編集画面にラバーバンドが表示されているときは、組込はできません。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「組込」をクリックします。
画面にウインドウが表示されディスクに入っているファイル名の一覧が表示されます。
(3)　組み込みたいファイル名にマウスカーソルを合わせてクリックします。
ここでダブルクリックをすると（4）の手順まで同時に実行します。
(4)　ウインドウ上の「読込」ボタンをクリックするか、リターンキーを押します。
ウインドウが消え、指定したファイルの図形のラバーバンドが編集画面に表示されます。
(5)　表示する位置が決まったらクリックします。指定された位置に図形が表示されます。
組込を中止する場合は「中止」をクリックします。

1.7　印刷

図形を印刷します。

印刷を行なう前にプリンタ設定が行なわれていることを確認してください。設定が行なわれていないと「ファイルがありません」とメッセージが表示され、印刷できません。プリンタ設定については「VSHELL」マニュアルをご覧下さい。

(1)　「タイトル」バーをクリック。
「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　プリンタの接続や設定を確認し、「印刷」をクリック。
「用紙をセットしてRETキーを押して下さい」と表示されます。
(3)　用紙がセットされているのを確認して　RETURN　キーを押します。
印刷が実行されます。
印刷が終了するとタイトルメニューの反転が元に戻ります。

1.8　終了

「ViewPAINT」を終了させるコマンドです。

保存を行わずにこのコマンドを実行すると、描いた図形は消え表示させることができなくなります。

今後も使用する可能性のある図形については、保存（または更新）を行うことをお勧めします。

(1)　「タイトル」バーをクリックします。
　　「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「終了」をクリックします。
　　「終了しますか」と表示されます。
(3)　「はい」をクリックします。
　　「ViewPAINT」の画面が消え、「VSHELL」の画面が現れます。終了したくない場合は「いいえ」をクリックします。

第2章　編集メニュー

描いた図形の、削除やコピー、図形反転のためのコマンドがあります。

2.1　復元

最後に実行した作画、または編集コマンドを取り消します。復元コマンド自身も対象なので、2回続けて実行すると最初の復元コマンドが復元され、何もしないのと同じ結果になります。

(1)　「編集」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「復元」をクリックします。
　　最後の作画、または編集コマンドが取り消されます。

2.2　消去

セレクトツールで指定された図形を消去します。

(1)　セレクトツールで消去する領域を指定。
　　ラバーバンドが表示されていない状態では、消去コマンドは選択できません。
(2)　「編集」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3)　「消去」をクリックします。
　　指定された領域が消去されます。

2.3 複写

セレクトツールで指定した領域を、複写データとしてMSX内部に記憶する機能です。

ただし、記憶されるのは、領域データだけでその図形そのものではないので、その領域内を描きかえると貼込み時には、複写時とは違う図形（描きかわった図形）が貼り込まれるので注意が必要です。

(1) セレクトツールで複写する領域を指定します。
ラバーバンドが表示されていない状態では、複写コマンドは選択できません。
(2) 「編集」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(3) 「複写」をクリックします。
指定された領域が複写データとして記憶されます。

2.4 貼込

最後に実行した複写コマンドのデータを編集画面内に表示します。

このコマンドを実行すると、使用した複写データは失われます。

複写データがない時（起動してから1度も複写コマンドが実行されていない場合）は、実行できません。

(1) 「編集」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2) 「貼込」をクリックします。
複写データの大きさの枠線が表示されます。
ここで右クリックすると、中止することができます。
(3) データを表示する位置が決まったらクリックします。
指定された位置に複写データが表示されます。

2.5 反転

セレクトツールで指定された図形を反転します。

反転には、「上下反転」、「左右反転」、「白黒反転」があります。

(1) セレクトツールで反転する領域を指定。
ラバーバンドが表示されていない状態では、反転コマンドは選択できません。
(2) 「編集」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。

(3)　「上下反転」、「左右反転」、「白黒反転」のどれかをクリックします。
指定された領域が反転されます。

2.6　総選択

編集画面全体を選択します。

(1)　「編集」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「総選択」をクリックします。
編集画面全体が選択されます。

第3章　字体メニュー

これから入力しようとする（または、入力中の）文字の飾り付け、サイズを指定します。入力中に変更されれば、その文字領域の全ての文字が変更されます。ここで指定した設定は、新たに設定しなおすまで有効です。

飾付
✓なし N　太字 B
斜体 I　輪郭 O
影 W　下線 U
縞
サイズ
8　10　✓12
14　16　20
24　28　32
12x8

3.1　飾付

飾り付けの種類は、「太字」、「斜体」、「輪郭」、「影」、「下線」、「縞」が用意されています。これらの飾り付けは、複数を同時に指定することができます。飾り付けを行わない場合は「なし」を指定します。

(1)　「字体」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。チェックマークのある飾り付けが設定されています。

(2)　変更したい項目をクリックします。
チェックマークが付いていたら消え、消えていたら付きます。入力領域の文字は、設定された飾り付けに従って書き直されます。
「なし」に設定された場合は、全ての飾り付けが解除されます。
メニューは1回毎に閉じるので、複数の設定をしたい時は、繰り返し操作して下さい。

3.2　サイズ

文字のサイズをドット数で指定します。どれか1つのみ設定できます。

(1)　「字体」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。チェックマークのあるサイズに設定されています。

(2)　設定したいサイズをクリックします。
入力領域の文字は、指定されたサイズに従って書き直されます。

第4章　字種

これから入力しようとする（または入力中の）文字フォントのデザインを指定します。フォント名の後ろの数字は文字の大きさ（ドット数）を示しています。

「標準字体（12×8）」、「標準字体（16）」、「ROM（12×8）」は標準のフォントで、かな・漢字のフォントは、この3種類のみです。ディスク上にフォントファイルがあれば、標準以外のフォント名も表示されますが、それらを指定すると、全角の英数文字以外は表示できなくなります。ここで指定した設定は、新たに設定し直すまで有効です。

✓標準字種(12)	標準字種(16)
ROM(12x8)	EUROPE(16)
EUROPE(24)	NASA(16)
NASA(24)	NEWYORK(16)
NEWYORK(24)	EGYPT(16)
EGYPT(24)	

(1) 「字種」コマンドバーをクリックします。
　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。現在の字種にはチェックマークが付いています。

(2) 設定したいフォント名をクリックします。
　入力領域の文字は、指定されたフォントに従って書き直されます。

第5章　書式メニュー

これから入力しようとする（または入力中の）文字領域に関する設定を行います。文字領域は、入力を終了すると復活できませんので、必ず入力終了前に設定して下さい。ここで指定した設定は、新たに設定しなおすまで有効です。

5.1　書式

文字を文字領域内の各行の中央（センタリング）、右端（右寄せ）、左端（左寄せ）、に寄せて表示する機能です。どれか一つのみ設定可能です。

(1)　「書式」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「センタリング」、「右寄せ」、「左寄せ」のどれかをクリックします。
　　入力中の文字が選択した書式に変わります。

5.2　文字間

文字と文字の間隔を調整する機能です。「1」は1ドット、「2」は2ドット、「3」は3ドット分の間隔を開けます。

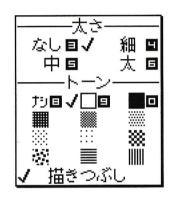
(1)　「書式」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「1」、「2」、「3」のどれかをクリックします。
　　入力中の文字が選択した文字間に変わります。

5.3 禁則処理

行頭に句読点（、。）や受けの括弧（」）｝］など）を表示しないようにする処理を禁則処理といいます。「禁則処理あり」に設定すると、文字領域の右端1列が、句読点と受け括弧のために確保され、それ以外の文字は入力できなくなります。行頭にそれらの文字がきた時は、前行右端の確保された部分に繰り上げて表示します。

第6章　線種メニュー

これから描こうとする図形の線種指定を行います。

「線種」では線の太さ、図形を塗りつぶす模様（トーン）、およびその塗りつぶし方を選択します。

6.1　太さ

これから描こうとする図形の線の太さを指定するコマンドです。

線の太さには、「なし」、「細線」、「中線」、「太線」の4種類が用意されています。「なし」を選択すると、四角や円等の外枠の線が表示されなくなります。ここで指定した線の太さは、新たに他の線の太さを指定するまで有効です。

(1)　「線種」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。

(2)　使用したい線の太さをクリックします。
　　メニューが消え設定されます。

6.2　トーン

これから描こうとする図形の内部のトーンを指定するコマンドです。

トーンにはナシと白があります。「ナシ」は透明なフィルム、「白」は白い紙のようなものです。図形を重ねて描くと、ナシは下側が透けて見え、白は下側の図形の上に重なって表示されます。ここで指定したトーンは、新たに他のトーンを指定するまで有効です。

(1)　「線種」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　使用したいトーンをクリックします。
　　メニューが消え設定されます。

6.3　描きつぶし

これから描こうとする図形のトーンの塗り方を指定するコマンドです。トーンの白い部分を透明として扱うか、それとも本当に白として塗るかを指定します。

チェックマークが付いている状態が描きつぶし状態で、白は白として塗られます。ここで指定した設定は、新たに設定し直すまで有効です。

(1)　「線種」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「描きつぶし」をクリックします。
　　チェックマークが付いていたら消え、消えていたら付きます。

第7章　「表示」メニュー

画面表示に関する操作を行います。
図形を拡大して細部の修正などを簡単に行う拡大表示、正確な図形を簡単に描くために描画画面にかけられる格子幅の設定などがあります。

拡大 原寸
格子幅

✓0	2	3
4	5	6
7	8	9
10	12	14

7.1　拡大

編集画面を拡大モードにします。すでに拡大モードになっている時は実行できません。
エンピツツールを2回クリックすると、前回の拡大モードと同じ位置で拡大モードに入ることができます。拡大モードでは、スクロールバーにより、拡大表示の範囲を移動することができます。スクロールバーの白い部分が、現在の表示位置を示しています。

(1)　「表示」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　「拡大」をクリックします。
　　枠線が表示されますので、拡大モードで表示する範囲を指定します。マウスを操作して、拡大したい部分が収まるようにしてください。
　　収まりきらない場合は、とりあえず一部を指定しておき、拡大モードになってから対処します。
(3)　位置が定まった所でクリックします。
　　いったん編集画面が消えて、指定された範囲が拡大モードで表示されます。ウインドウ下部には拡大領域の原寸イメージが表示されます。

7.2 原寸

編集画面を原寸モードにします。すでに原寸モードになっている時は実行できません。

(1) 「表示」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2) 「原寸」をクリックします。
いったん編集画面が消えて、原寸モードで再表示されます。
また、ウインドウ下部の「原寸」イメージ表示ウインドウをクリックしても指定できます。

7.3 格子

編集画面内で、線の始点、終点などを指定する際に、一定間隔の格子点上に揃える機能です。格子のドット間隔で指定します。0が最高精度（全てのドットが格子点となる）となります。荒い格子を指定すれば、マウスの細かいブレを気にせず作画できます。

ただし、格子線は表示されません。思ったところに点が指定できないときは、この設定状態を確認してください。ここで指定した設定は、新たに設定し直すまで有効です。ただし、拡大モードの間はこの指定は無視されます。

(1) 「表示」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2) 「格子」をクリックします。
格子幅の数字が表示されます。現在の格子幅にはチェックマークが付きます。
(3) 希望の格子幅をクリックします。
メニューが消え、新しい格子幅が設定されます。

第8章　「道具」メニュー

「VSHELL」を経由せずに、直接他のアプリケーションを起動します。作成したデータを、すぐに他のアプリケーションで利用したい場合に便利な機能です。ただし、保存、または登録の処理を忘れないよう、十分注意して下さい。

(1)　「道具」コマンドバーをクリックします。
　　メニューが表示されます。
(2)　起動したいアプリケーションをクリックします。
　　「ViewPAINT」は終了し、選択したアプリケーションが起動されます。

第9章　「作画」メニュー

直線、円、四角形を描くツール、テキストの入力位置（テキストブロックと呼びます）を決めるツール、編集の範囲を選択するツールなどがあります。

9.1　セレクトツール

編集コマンドなどの処理対象となる範囲の長方形を選択します。
選択された範囲はラバーバンドと呼ばれる長方形で示されます。
ラバーバンドには8個のマークがついており、マークをクリックすることでラバーバンドを変形することができます。
さらに、選択された範囲のイメージの複写、拡大、縮小の機能もあります。

(1)　「作図」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　セレクトアイコンをクリックします。
　　セレクトアイコンが反転表示されます。
(3)　選択したい図形のある範囲の一角をクリックします。
　　マウスカーソルの動きに合わせて、範囲指定の目安枠が表示されるようになるので、枠線が選択したい図形全体を囲む位置まで、マウスカーソルを移動します。
　　ここで右クリックすると、枠線が消えて、再び始点から指定し直すことができます。
(4)　位置が定まった所でクリックします。
　　範囲が確定し、ラバーバンドが表示されます。

9.1.1　図形の複写

ラバーバンドで囲まれた範囲の図形はマウスカーソルで複写できます。機能的には「編集」メニューの「複写」コマンドと同じです。

(1)　セレクトツールで範囲を確定し、ラバーバンドの内側をクロスカーソルでクリックします。
　　ラバーバンドと同じ大きさの枠線が表示されます。
(2)　マウスを動かして複写したい位置に移動します。
(3)　複写を行なう位置でクリックします。
　　ラバーバンドと複写した図形が表示されます。
　　ここでもう一度クリックをするとまた枠線になり複写位置を変更できます。
　　右クリックをするとラバーバンドが消えて複写が完了します。

9.1.2　図形の拡大縮小

範囲を確定したラバーバンドのマークをクリックすることで、ラバーバンド内の図形を拡大、縮小することができます。

(1)　セレクトツールで範囲を確定し、ラバーバンドのマークをクリックします。
　　枠線が表示されます。クリックしたマークの位置により、拡大縮小できる方向がかわります。
(2)　マウスを移動して枠線を変形させ、拡大縮小を行ないます。
(3)　位置が決まったら、クリックします。
　　枠線内に拡大縮小された図形が再表示されます。
　　ここでもう一度マークをクリックすると再び、拡大縮小が行なえます。
　　右クリックをするとラバーバンドが消えて複写が完了します。

9.2　テキストツール

文

文字領域を指定して、キーボードから文字入力を行うツールです。

(1)　「作図」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　テキストアイコンをクリックします。
　　テキストアイコンが反転表示されます。
(3)　セレクトツール操作の要領で文字領域を指定する。
　　文字カーソルが表示されます。キーボードから文字を入力して下さい。

文字の入力方法については、「VSHELL」マニュアルをご覧下さい。
この状態でラバーバンドをクリックすると、文字領域の大きさを変えることができます。

(4) 右クリックする。
ラバーバンドが消え、文字入力が終了します。
文字入力を終了してしまうと、その文字領域のラバーバンドは復活できなくなります。

9.3 直線ツール

マウスで2点を指定して、線分を引くツールです。

(1) 「作図」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。

(2) 直線アイコンをクリックします。
直線アイコンが反転表示されます。

(3) 線の始点でクリックします。
ラバーバンドが表示されます。
ここで右クリックすると、中止することができます。

(4) 終点の位置を決めてクリックします。
線が引かれます。

9.4 四角ツール

マウスで対角線の2点を指定して長方形を描くツールです。

(1) 「作図」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。

(2) 四角アイコンをクリックします。
四角アイコンが反転表示されます。

(3) 描きたい長方形の1頂点でクリックします。
枠線が表示されます。
ここで右クリックすると、中止することができます。

(4) 長方形の大きさが決まった所でクリックします。
長方形が描かれます。

9.5　R角四角ツール

マウスで対角線の2点を指定して角の丸い長方形を描くツールです。
使用方法は、四角ツールと同じです。

9.6　楕円ツール

四角ツールの要領で外接長方形を指定して、楕円（円）を描くツールです。

(1)　「作図」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　楕円アイコンをクリックします。
　　楕円アイコンが反転表示されます。
(3)　描きたい楕円の外接長方形の1頂点でクリックします。
　　楕円枠線が表示されます。
　　ここで右クリックすると、中止することができます。
(4)　楕円の形と大きさが決まった所でクリックします。
　　楕円が描かれます。

9.7　多角形ツール

マウスで次々に点を指定してゆき、それらの点を結ぶ多角形を描くツールです。

(1)　「作図」コマンドバーをクリックします。
　　コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2)　多角形アイコンをクリックします。
　　多角形アイコンが反転表示されます。
(3)　多角形の頂点を次々にクリックします。
　　直線ツールを連続使用するような感覚で操作して下さい。
　　ここで右クリックすると、そこまでの操作を取り消すことができます。
(4)　最後の頂点で2回クリックします。
　　最初の頂点と最後の頂点が結ばれて、多角形が描かれます。
　　頂点の数は最大16点です。

9.8　自由線ツール

マウスでドラッグして自由曲線を描くツールです。

(1) 「作図」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2) 自由線アイコンをクリックします。
自由線アイコンが反転表示されます。
(3) 自由にドラッグ。
マウスカーソルが通った部分に線が引かれます。
左ボタンを離せば終了します。

9.9 消しゴム

マウスでドラッグして、図形を消してゆくツールです。

(1) 「作図」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2) 消しゴムアイコンをクリックします。
消しゴムアイコンが反転表示されます。さらに、編集画面内のマウスカーソルが小さな白抜きの四角になります。
(3) 消したい部分をドラッグ。
マウスカーソルの通った部分が消されます。

9.10 エンピツ

点を打つツールです。ドラッグすれば、自由線も引けます。このツールは線種メニューの指定とは関係なく、常に1×1ドットのペン先になっています。拡大モードでは、ドットを反転します。

(1) 「作図」コマンドバーをクリックします。
コマンドバーが反転し、メニューが表示されます。
(2) エンピツアイコンをクリックします。
エンピツアイコンが反転表示されます。
(3) 点を打ちたいところをクリックします。
点が打たれます。ドラッグすれば自由線も引けます。
拡大モードでは、クリックした位置のドットを反転します。ドラッグした場合は、最初のドットの結果が反映されます（最初のドットが黒から白に反転されたなら白い軌跡、逆だったなら黒い軌跡になる。）

第3部
キー対応

第1章　メニューキー

次に示す各キーは、メニューバーの機能の呼び出しに対応しています。
「ViewPAINT」の場合、次のように割り当てられています。

SELECT タイトルメニュー
STOP デスクアクセサリメニュー
F1 編集メニュー
F2 字体メニュー
F3 字種メニュー
F4 書式メニュー
F5 線種メニュー
F6 表示メニュー
F7 道具メニュー
F8 作図メニュー

第2章　ショートカットキー

ショートカットキーとは、GRAPH キーと一緒に押すことで、メニューバーの機能をプルダウンメニューの操作なしに実行するものです。
ViewPAINTの場合次のように割り当てられています。

○タイトルメニュー

読込	GRAPH + L
更新	GRAPH + S
印刷	GRAPH + P
登録	GRAPH + R
組込	GRAPH + G
終了	GRAPH + Q

○編集メニュー

復元	GRAPH + Z
貼込	GRAPH + V
複写	GRAPH + C
消去	GRAPH + K
総選択	GRAPH + A

○字体メニュー

なし	GRAPH + N
太字	GRAPH + B
斜体	GRAPH + I
輪郭	GRAPH + O
影	GRAPH + W
下線	GRAPH + U

○書式メニュー

左寄せ	GRAPH + [
右寄せ	GRAPH +]
センタリング	GRAPH + ¥

○線種メニュー

太さ　なし	[GRAPH]+[3]
太さ　細	[GRAPH]+[4]
太さ　中	[GRAPH]+[5]
太さ　太	[GRAPH]+[6]
トーン　なし	[GRAPH]+[8]
トーン　白	[GRAPH]+[9]
トーン　黒	[GRAPH]+[0]

○「表示」メニュー

拡大	[GRAPH]+[<]
原寸	[GRAPH]+[>]

○ダイアログ

はい	[GRAPH]+[Y]
いいえ	[GRAPH]+[N]

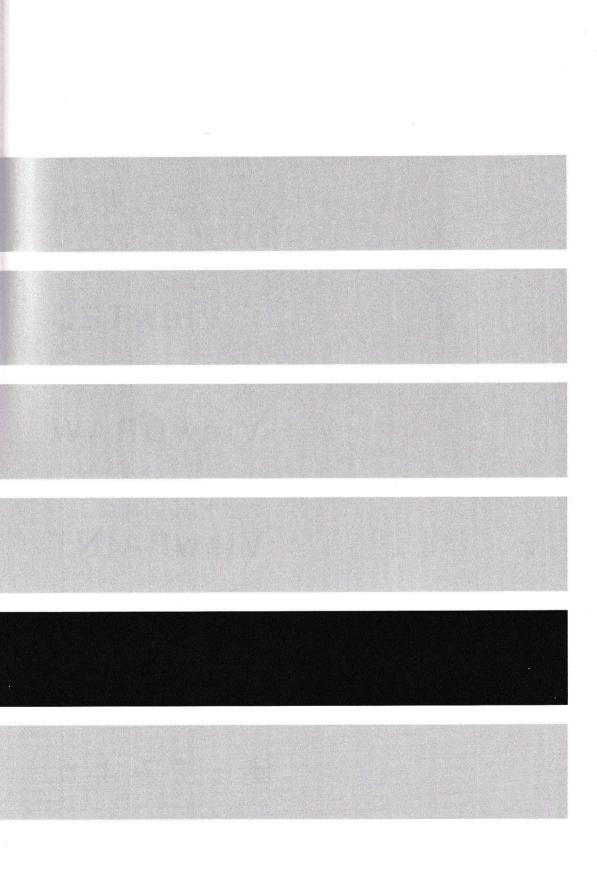
はじめに

ViewTED

ViewDRAW

ViewPAINT

PageBOOK

使ってみよう

第1部
PageBOOKについて

第1章　PageBOOKの概要

1.1　PageBOOKとは

「PageBOOK」はMSXView上で「本」を実現するためのプログラム群の総称です。「本」とはいっても、コンピュータ上の本ですから、紙でできた本よりもはるかに柔軟な表現が可能です。

1.2　PageBOOKを構成する3つのソフトウェア

「PageBOOK」は3つのソフトウェアで構成されます。

それぞれ、「PageEDIT」、「PageLINK」、「PageVIEW」という名前がついています。最初の「PageEDIT」と「PageLINK」はデータを作るためのソフトウェアです。最後の「PageVIEW」はこれらのデータを利用する（本で言えば「読む」ということ）ためのソフトウェアです。

これらをデータ作成の順に従って簡単に説明していきましょう。

1.2.1　PageEDITとは

「PageEDIT」は、本でいえば1枚1枚のページを作るためのソフトウェアです。文章だけではなく、簡単な図形を表現することもできます。機能の大半は「ViewDRAW」と同じなので、そちらに慣れた方にはそれほど難しくはないでしょう。

さらに「PageEDIT」では、この「ViewDRAW」に「PageBOOK」のための機能を追加しました。それは、「スクリプトコマンド」を画面に配置する機能です。スクリプトコマンドとは、ページとページ、あるいはページとその他のソフトウェアを結び付けるための命令で（他にもメッセージを表示したり、ビープ音を鳴らすなどの機能もあります）、「PageBOOK」での最も重要な機能といえるでしょう。

1.2.2　PageLINKとは

「PageEDIT」ではページを作りますが、それだけではまだ本の形になっているとは言えません。各ページにページ番号を割り振って、その順番に並べる必要があるのです。これを行うのが、「PageLINK」の役割です。

この順番は、各ページのファイル名を順番に並べた文章をテキストエディタで書くことで指定できます。テキストエディタの機能は「ViewTED 」と同じものです。この順番を指定した文章をリンクリストと言います。

そして、次に「製本」を指示すると、「PageVIEW」で利用できるようなデータが作成されます。

1.2.3　PageVIEWとは

「PageView」は「PageEDIT」、「PageLINK」を使って作成したデータを「読む」ためのソフトウェアです。

操作はいたって簡単です。基本的には、「PageEDIT」で指定したスクリプトコマンドと、画面右上のページ送りボタンを使うだけです。

第2部
PageEDIT

第1章　PageEDITの概要

1.1　PageEDITとは

「PageEDIT」は「ViewDRAW」を「PageBOOK」用に改変したものです。そのためほとんどの機能は「ViewDRAW」と同じものになっています。

1.2　PageEDITの特徴

1. PageVIEWを操作するためのスクリプトコマンドに関する機能を追加しました。
2. 図形に色が使えるようになりました。
3. 描画ウィンドウの大きさを512×196に固定しました。これに伴い、スクロールバーがなくなり、作図アイコンはメニューバーに移動しました。
4. ページ変更機能が無くなりました。

「PageEDIT」では図形・文字のことを「セル」といいます。

第2章　リファレンス

「PageEDIT」の機能はほぼ「ViewDRAW」と同じものです。したがってこの章では「ViewDRAW」との相違点のみ説明します。

2.1　コマンドバー

2.1.1　作画

ViewDRAWでは画面左にあったものがコマンドバーに移りました。他のメニューと同じように「作図」コマンドバーをクリックした後、各機能のアイコンをクリックします。

また、アイコンメニューで選択されたアイコンが表示されます。

2.2　編集メニュー

2.2.1　画面切替

画面切替 Y
文字枠詰 F
座標表示… J
スクリプト… T
セル表示順… M

作画ウィンドウを切り換えます。

PageEDITは作画ウィンドウを2つ持っており、このコマンドで画面を切り換えます。画面を切り換えても描画されたデータは保存されます。

タイトルメニューの中のコマンドをはじめ、全てのコマンドは表示されている作画ウィンドウを対象に行われます。

また、これに伴いページメニューはなくなりました。

2.2.2　座標表示

セレクトツールで選択されたセルの座標の表示、変更を行います。

セルの左上の座標と、セルの大きさが表示されます。

数値枠をクリックすると数値入力モードになります。数値変更後、「設定」をクリックするとその数値が設定されます。変更したくない場合は「中止」をクリックします。

2.2.3　スクリプト

指定されたセルにスクリプトコマンドを登録します。このスクリプトコマンドは「PageVIEW」での動作を制御する命令です。詳しくはこの後の「スクリプトコマンド」を参照してください。

1画面の中に定義できるスクリプトの最大数は48個です。

ただし、文、多角形、ビットマップの領域には登録することはできません。
このコマンドでは文法チェックは行いません。
スクリプトコマンドは半角文字で入力して下さい。

2.2.4 セル表示順

指定された領域内のセルをX座標またはY座標の小さい順に表示し直します。領域が指定されていない場合は画面ウィンドウ全体を対象にします。

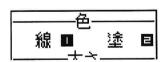
最初に、セレクタで領域を指定します。画面全体をコマンドの対象にする場合はこの指定は必要ありません。次に、編集メニューの中の「セル表示順」をクリックすると、ウィンドウが開きます。ここで基準となる座標を指定します。左上のアイコンをクリックすればY座標が、右上のアイコンをクリックすればX座標が基準になります。デフォルトはY座標です。「設定」をクリックするとコマンドを実行します。中止したいときは「中止」をクリックします。

2.2.5 ビットマップ

選択されたセルのVRAM上の色コードを得て、ビットマップセルを作成します。ビットマップセルは2色しか用いることができませんので、これを「2値化指定」ウィンドウで指定します。それぞれの色または数字をクリックすると、「0」と「1」が交互に指定されます。「1」を線種メニューの「線」で指定された色に、「0」を線種メニューの「塗」で指定された色に変換します。

変換後の図形が32×32ドットまでの大きさなら、アイコンメニューの「エンピツ」で編集できます。

2.3 線種

2.3.1 色

・線
線の色をパレットから選択します。
・塗
図形の内側を塗る色をパレットから選択します。

2.4 表示

2.4.1 palette

パレットの色を変更します。メニューから「palette」を選ぶとウィンドウが表示されます。右側から色を選び、左側のバーのつまみをドラッグしながら上下に動かすことで、パレットを変更できます。

「PageVIEW」実行時の画面上端タイトルのカラーコードは以下のようになっています。

帯：2　　文字：1　　文字の縁どり：14

第3章　スクリプトコマンド

3.1　概要

スクリプトコマンドとは、「PageVIEW」上で、ページのつながりやファイルの実行といったデータのつながりを指定したり、パレットの変更やビープ音の発生といったような演出をプログラムするための簡単な命令です。これらを使うことによって、紙ではできないようなコンピューターによる柔軟な表現が可能になるわけです。

スクリプトコマンドは「PageEDIT」でセルに登録するようになっています。「PageVIEW」上では、スクリプトコマンドを与えられたセルをクリックすることで実行されます。

3.2　スクリプトコマンドの書き方

スクリプトコマンドは半角英字で入力します。ただし、<ファイル名>あるいは<文字列>の箇所は全角でも構いません。

スクリプトコマンドは半角スペースまたはTABで区切って複数個続けることができます。

例）　beep 1 mes 正解です！ skip 1

　このスクリプトコマンドを実行すると「ピンポン」とビープを鳴らして、「正解です！」と表示し、次のページに進みます。

3.2.1　ジャンプ命令

go

機能　ページ移動

書式　go <ページ>

文例　go 10

解説　指定のページに移動します。

skip

機能　相対ページ移動

書式　skip <相対値>

文例　skip 4（現在のページ＋4）ページに移動します。
　　　skip -3（現在のページ－3）ページに移動します。

解説　現在のページから相対値でページを移動します。マイナスの数値も指定できます。

next

機能　次ページ移動
書式　next
文例　next
解説　次のページに移動します。

prev

機能　前ページ移動
書式　prev
文例　prev
解説　前のページに移動します。

first

機能　第1ページへ移動
書式　first
文例　first
解説　第1ページに移動します。

last

機能　最終ページへ移動
書式　last
文例　last
解説　最終ページに移動します。

index

機能　目次のページへ移動
書式　index
文例　index
解説　目次のページに移動します。「PageLINK」で作成したリンクリストで
"'@"で指定されたページへ移動します。

3.2.2　制御命令

@

機能　繰り返し命令
書式　@
文例　@ beep 1　ビープ音を繰り返し鳴らす。

解説　コマンド列にこの命令が含まれていると、コマンド列を繰り返し実行します（無限ループ）。繰り返しから抜けるには、ジャンプ命令などを使います。
無限ループに陥った場合は、マウスの右ボタンをクリックすると抜けられます。これで抜けられない場合はマウスの左ボタンと右ボタンを同時にクリックしてください。
このコマンドはコマンド列のどこにあっても有効です。

＊main

機能　自動起動コマンド

書式　＊main

文例　＊main mes Welcome!
このスクリプトコマンドが含まれているページが表示されると「Welcome!」と表示する。

解説　組み込まれたコマンド列の中にこの命令が含まれている場合、そのページが表示されると自動的にコマンド列が実行されます。この命令を含んだコマンド列が複数あった場合、先に表示される図形（奥の方にある図形）のスクリプトコマンドを実行します。

yesno

機能　ユーザー確認

書式　yesno <文字列>

文例　yesno ページ７に行きますか

解説　文字列と共に「はい」、「いいえ」の選択肢を表示します。「はい」をクリックすると続くコマンドが実行されます。「いいえ」をクリックするとコマンドを終了します。

end

機能　PageVIEWの終了

書式　end

文例　end

解説　PageVIEWを終了します。この際、終了を確認するためのウィンドウが表示されます。

3.2.3 表示命令

home

機能 現在のページの再表示

書式 home

文例 home

解説 現在のページを再表示します。
clearコマンドで消去されたスクリプトコマンドが復帰します。
clear命令を参照してください。

mes

機能 文字列の表示

書式 mes <文字列>

文例 mse クリックして下さい

解説 マウスカーソル位置に文字列を表示します。クリック、または何かキーを押せば次のコマンドを実行します。

3.2.4 ファイル関係

load

機能 ページファイルの読み込み

書式 load <ファイル名>

文例 load 目次.cmn

解説 「PageEDIT」で作成したページファイルを読み込み、表示します。ファイル名には拡張子「.cmn」が必要です。
clear命令を参照してください。

exe

機能 デスクアクセサリの実行

書式 exe <ファイル名>

文例 exe 時計.da

解説 デスクアクセサリを実行します。ファイル名には拡張子「.da」が必要です。

jp

機能 指定アプリケーションの実行

書式 jp <ファイル名>

文例 jp ted.)tx

解説 指定アプリケーションを実行します。このコマンドを実行すると「PageVIEW」には戻りません。

show

機能　テキストファイルの表示

書式　show <ファイル名>

文例　show 案内状.txt

解説　テキストファイルの先頭を表示します。ただし表示されるのは、全角で20文字（256ドット）×6行までです。

open

機能　別ファイルの実行

書式　open <ファイル名>

文例　open 解説1.bok

解説　「PageVIEW」用のファイルを読み込み実行します。ファイル名には拡張子「.bok」が必要です。新たに読み込んだ「PageVIEW」ファイルを終了しても元のファイルには戻りません。

3.2.5　その他

clear

機能　スクリプトコマンドのクリア

書式　clear

文例　clear

解説　現在の画面上の全てのスクリプトコマンドをクリアします。このコマンドを実行せずにload命令を実行した場合、現在の画面のスクリプトコマンドはそのまま残ります。

pal

機能　パレットの変更

書式　pal <色番号> <RGB>

文例　pal 15 717

色番号15を赤7、緑1、青7にします。

解説　指定された色番号のパレットを変更します。

snap

機能　ページ印刷

書式　snap

文例　snap

解説　現在のページを印刷します。

pr

機能　テキストファイルの印刷
書式　pr <ファイル名>
文例　pr 番付.txt
解説　テキストファイルを印刷します。

wait

機能　時間待ち
書式　wait <数値>
文例　wait 30
解説　指定された時間待ちます。

beep

機能　ビープ音の発生
書式　beep <数値>
文例　beep 1
解説　ビープ音を鳴らす。数字は０～２を指定します。
　　0　ピッ
　　1　ピンポン
　　2　プー（低音）

brows

機能　ページの自動送り
書式　brows
文例　brows
解説　一定間隔で自動的にページを順に表示します。
　　最終ページまで来ると、先頭ページに戻ります。

第4章　キー対応

4.1　メニューキー

次に示す各キーは、メニューバーの機能の呼び出しに対応しています。
「PageEDIT」の場合、次のように割り当てられています。

SELECT	タイトルメニュー
STOP	デスクアクセサリメニュー
F1	編集メニュー
F2	字体メニュー
F3	字種メニュー
F4	書式メニュー
F5	線種メニュー
F6	表示メニュー
F7	道具メニュー
F8	作図メニュー

4.2　ショートカットキー

ショートカットキーとは、GRAPH キーと一緒に押すことで、メニューバーの機能をプルダウンメニューの操作なしに実行するものです。
ViewEDITの場合次の用に割り当てられています。

○タイトルメニュー

読込	GRAPH + L
更新	GRAPH + S
登録	GRAPH + R
組込	GRAPH + G
印刷	GRAPH + P
終了	GRAPH + Q

○編集メニュー

復元	GRAPH + Z
消去	GRAPH + K
貼込	GRAPH + V
切取	GRAPH + X
複写	GRAPH + C

複製	GRAPH + D
前出	GRAPH + <
後送	GRAPH + >
画面切換	GRAPH + Y
文字枠詰	GRAPH + F
座標表示	GRAPH + J
スクリプト	GRAPH + T
セル表示順	GRAPH + M
ビットマップ	GRAPH + H
総選択	GRAPH + A

○字体メニュー

なし	GRAPH + N
太字	GRAPH + B
斜体	GRAPH + I
輪郭	GRAPH + O
影	GRAPH + W
下線	GRAPH + U

○書式メニュー

左寄せ	GRAPH + 「
右寄せ	GRAPH + 」
センタリング	GRAPH + ¥

○線種メニュー

色　線	GRAPH + 1
色　塗	GRAPH + 2
太さ　なし	GRAPH + 3
太さ　細	GRAPH + 4
太さ　中	GRAPH + 5
太さ　太	GRAPH + 6
トーン　なし	GRAPH + 8
トーン　白	GRAPH + 9
トーン　黒	GRAPH + 0

○表示メニュー

セル数	GRAPH + E

○確認ダイアログ

はい	GRAPH + Y
いいえ	GRAPH + N

第3部
PageLINK

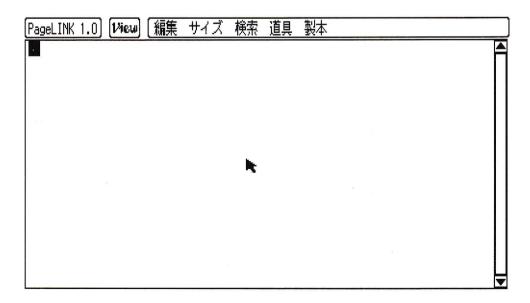
第1章　PageLINKの概要

1.1　PageLINKとは

「PageLINK」は、「ViewTED」に製本の機能を付け加えたものです。リンクリストの編集作業は「ViewTED」上と同じように行えます。

2.2　PageLINKの特徴

「PageLINK」には主に以下の２つの機能があります。

1. 「PageEDIT」で作成されたページリストの並べ方を指定するリンクリストを編集する。
2. リンクリストを基にページリストを結合し、「PageVIEW」で利用できる形にする（つまり拡張子「 .BOK」のファイルを生成すること。ここでは「製本」といいます）。

第2章　リファレンス

「PageLINK」は「ViewTED」に製本の機能を加えたものです。したがってこの章では「ViewTED」との相違点のみ説明します。

2.1　製本

製本実行
―メンバ名―
選択入力
一括入力

2.1.1　製本実行

表示ウィンドウに表示されているリンク・リストを基に製本を行います。

(1)　「製本」メニューから「製本実行」をクリックします。
ウィンドウが開き、ファイル名入力モードになるので、ファイル名を入力します。拡張子は必要ありません。

(2)　「保存」をクリックします。
製本を始めます。この時、リンクリストの文法の間違いもチェックします。間違いがあったら、エラーメッセージを表示し、その行にカーソルを表示します。

2.1.2　メンバ名

PageEDITで作成したファイル名を読み込んで、自動表示する機能です。

・選択入力

ファイルを１つ読み込みます。

(1)　「製本」メニューから「選択入力」をクリックします。
ファイル名入力モードになります。

(2)　ファイル名を入力します。ここではワイルドカードを使用できます。特に指定しない場合は、「＊.CMN」になります。

(3)　「設定」をクリックします。
「中止」をクリックするとこのモードを終了します。

(4)　該当するファイル名の一覧が表示されます。
ファイルを選び、「読込」をクリック。
テキストカーソルのある行に指定したファイル名が読み込まれます。
「中止」をクリックするとファイル名設定モードに戻ります

・一括入力

複数のファイルを読み込みます。

(1) 「製本」メニューから「一括入力」をクリックします。
ファイル名入力モードになります。

(2) ファイル名を入力します。ここではワイルドカードを使用できます。特に指定しない場合は、「*.CMN」になります。

(3) 「設定」をクリックします。
「中止」をクリックするとこのモードを終了します。

(4) 該当するファイル名の一覧が表示されます。
「読込」をクリックします（ファイルを選択しても意味はありません）。
テキストカーソルのある行から該当するファイル名が全て読み込まれます。
「中止」をクリックするとファイル名設定モードに戻ります。

第3章　リンクリストの作成法

リンクリストとは「PageEDIT」で作成した.CMNファイルをどの様に並べるかを設定するためのファイルです。このリストに従って製本が行われます。

3.1　概要

リンクリストではファイル名を除く全ての命令は半角文字で入力します。

各命令は1行に1つしか記述できません。

空白や空行は「PageLINK」では意味を持ちません。ただし、ファイル名の前につける空白やTABは必ず必要で、省略できません。

3.1.1　ファイル名

空白またはTABにファイル名を続けます。拡張子「.CMN」は省略できません。「製本」メニューの「選択入力」または「一括入力」で読み込んだファイル名をそのまま使用できます。

このファイルが「PageVIEW」での1つのページに相当します。

これらのファイルを並べた順にページがふられることになります。

3.1.2　タイトル「.」

「.」以降から文末まではタイトル文字列になります。タイトル文字列とは、「PageVIEW」上で左上に表示される文字列のことです。一度指定すると次のタイトル指定があるまで有効です。

タイトルを表示したくないときは、「.」の後に何も書かないようにします。

3.1.3　目次「@」

「@」命令の後、最初にくるファイル名が目次になります。その他は、タイトル「.」と全く同じ働きをします。

3.1.4　コメント行「*」

「*」以降から文末まではコメントです。ここに書かれることは製本には影響ありません。

リンクリスト例

```
*1990/10/12　作成    ←この行はコメント行です。
    表紙．CMN
@目次
    CONT.CMN         ←このページが目次ページになります。
.第１章
    T11.CMN          ←この3ページはタイトルに「第１章」と表示します。
    T12.CMN          ←
    T13.CMN          ←
.第２章
    T21.CMN          ←この3ページはタイトルに「第２章」と表示します。
    T22.CMN          ←
    T23.CMN          ←
.
    後書.CM          ←タイトルには何も表示されません。
```

第4章　キー対応

4.1　メニューキー

次に示す各キーは、メニューバーの機能の呼び出しに対応しています。
「PageEDIT」の場合、次のように割り当てられています。

SELECT	タイトルメニュー
STOP	デスクアクセサリメニュー
F1	編集メニュー
F2	サイズメニュー
F3	検索メニュー
F4	道具メニュー
F5	製本メニュー

4.2　ショートカットキー一覧

ショートカットキーとは、GRAPH キーと一緒に押すことで、メニューバーの機能をプルダウンメニューの操作なしに実行するものです。

PageLINKの場合次の用に割り当てられています。

○タイトルメニュー

読込	GRAPH + L
登録	GRAPH + R
組込	GRAPH + G
更新	GRAPH + S
印刷	GRAPH + P
終了	GRAPH + Q

○編集メニュー

消去	GRAPH + K
切取	GRAPH + X
複写	GRAPH + C
貼込	GRAPH + V
全角	GRAPH + A
半角	GRAPH + H

○サイズメニュー

12×8	GRAPH + 1
12×12	GRAPH + 2
16×16	GRAPH + 3

○検索メニュー

前方検索	GRAPH + >
後方検索	GRAPH + <
置換（確認あり）	GRAPH + G
置換（確認なし）	GRAPH + R

○確認ダイアログ

はい	GRAPH + Y
いいえ	GRAPH + N

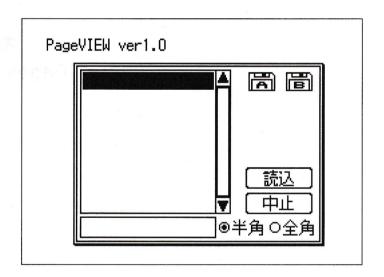
第4部
PageVIEW

第1章　PageVIEWの概要

1.1　PageVIEWとは

「PageVIEW」は「PageLINK」で編集されたデータを表示するためのソフトウェアです。

1.2　起動時のファイル入力

「PageVIEW」は起動すると、ファイル名一覧を表示するので、その中から読み込むファイルを選択します。

第2章　リファレンス

「PageVIEW」の操作は大きく次の３つの方法があります。

1．画面右上のインデックスエリアを使う。
2．ページ内に埋め込まれたスクリプトコマンドを使う。
3．ショートカットキーを使う。

以下、前者2つを説明します。

2.1　画面右上のインデックスエリア

最も基本的な機能である、前ページ、次ページ、目次ページへの移動を行います。

○左ボタン（スペース、右カーソル）
　前ページへ移動します。
○右ボタン（左カーソル）
　次ページへ移動します。
○目次ボタン（SELECT）
　「PageLINK」で指定した目次ページへ移動します。

2.2　ページ内に埋め込まれたスクリプトコマンド

「PageEDIT」で設定したスクリプトコマンドを実行します。
スクリプトコマンドが設定してある図形をクリックするとそのスクリプトコマンドが実行されます。

第3章　キー対応

3.1　ページ操作のショートカット

「PageVIEW」ではスクリプトコマンドや、前後ページに移動する機能のほかに、先頭、最終ページに移動したり、マウス操作の代わりになるキー操作があります。

キー	機能
↑	先頭ページへジャンプ
↓	最終ページへジャンプ
STOP	デスクアクセサリメニューの呼び出し
GRAPH + Y	はい（確認のウィンドウでの選択）
GRAPH + N	いいえ（確認のウィンドウでの選択）
GRAPH + Q	PageVIEWの終了
ESC	PageVIEWの終了

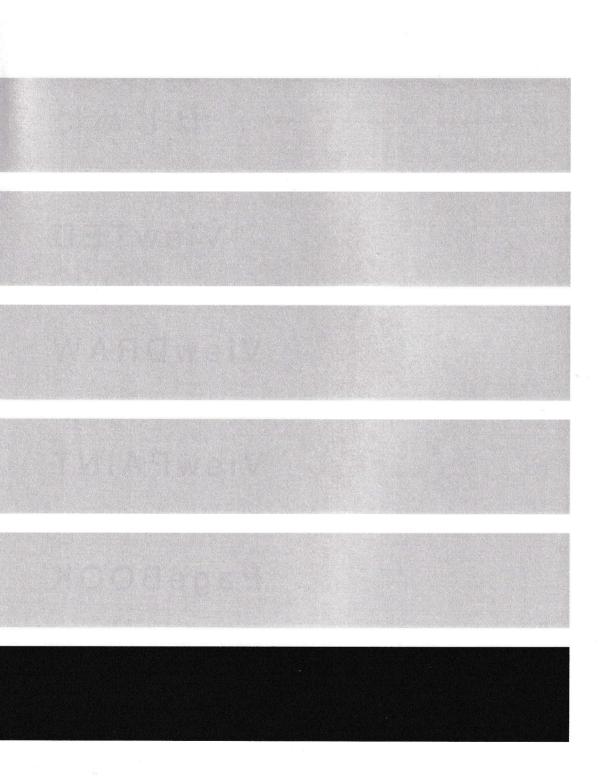
はじめに

ViewTED

ViewDRAW

ViewPAINT

PageBOOK

使ってみよう

例題　ダイレクトメールを作る

ViewDRAW、ViewTEDを使ってダイレクトメールを作ります。ここでは「MINAMI AOYAMA」という架空のパソコンショップのMSXViewに関するダイレクトメールを作成します。

下の図が完成イメージです。

MSXView新登場

●特徴

MSXViewはMSX turbo R専用に開発された、「グラフィカル・ユーザー・インターフェイス」です。
ヴィジュアルシェルを核として、全てのアプリケーションを統一された操作で取り扱います。データ交換が可能ですので、ひとつのデータを複数のアプリケーションで活用できます。

●内容

グラフィックユーザーインターフェイス		VSHELL
テキストエディタ		ViewTED
ベクトル系グラフィックエディタ		ViewDRAW
ペイント系グラフィックエディタ		ViewPAINT
電子本作成ツール	[ページ作成}	PageEDIT
	[編集と製本}	PageLINK
	[本を開く}	PageVIEW

価格　¥9800－

Step 1　テキストを作る

まず、文字の部分だけをViewTEDで作成します。
VSHELLから「道具」の「TED」をクリックし、ViewTEDを起動します。

1.1　文字サイズを変える

ViewTEDが起動したときの文字サイズは12×12ドットです。これは一画面にたくさんの文字が表示できますが、モニタテレビによっては文字が見ずらいので、16×16ドットにします。

(1)「サイズ」をクリックします。「サイズ」が反転し、メニューが表示されます。
(2)「16×16」をクリックします。画面がいったん消え、カーソル表示が大きくなります。

1.2　文字を入力する

下のように文書を入力します。

ＭＳＸＶｉｅｗ新登場

●特長
　ＭＳＸＶｉｅｗはＭＳＸ　ｔｕｒｂｏ　Ｒ専用に開発された、「統合ソフトウェア環境」です。
　ヴィジュアルシェルを核として、全てのアプリケーションを統一された操作で取り扱います。データ交換が可能ですので、ひとつのデータを複数のアプリケーションで活用できます。

●内容
グラフィックユーザーインターフェイス　ＶＳＨＥＬＬ
テキストエディタ　ＶｉｅｗＴＥＤ
ベクトル系グラフィックエディタ　ＶｉｅｗＤＲＡＷ
ペイント系グラフィックエディタ　ＶｉｅｗＰＡＩＮＴ
電子本作成ツール（ページ作成）　ＰａｇｅＥＤＩＴ
（編集と製本）　ＰａｇｅＬＩＮＫ
（本を開く）　ＰａｇｅＶＩＥＷ

価格　￥９８００ー

1.3 文書の保存

ここまでできたらいったん文書を保存しておきましょう。

今、Aドライブには MSXView のシステムディスクが入っています。2ドライブシミュレータがはたらいているMSXでは、これをデータディスクに入れ換えて「DM」と言うタイトルで保存します。すでにドライブが2機以上接続されているMSXでは、Bドライブにデータディスクを差し込みます。

(1) 「タイトル」バーをクリックします。「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(2) 「保存」をクリックします。保存のファイルウィンドウが表示され、ファイルネーム入力エリアでカーソルが点滅します。
(3) Bドライブのアイコンをクリックします。
　1ドライブのMSXでは「ディスクを交換してください」と表示されます。MSXViewシステムディスクを抜きとり、保存用のデータディスクをドライブに差し込みます。交換が終了したら「交換完了」をクリックします。2ドライブのMSXの場合は、Bドライブにデータディスクを差し込みます。
(4) ファイル名をキーボードから入力します。ファイル名は全角文字で4文字以内、半角文字で8文字以内です。ここでは「テキスト」としておきます。
(5) ファイル名の入力が終了したら「保存」をクリックします。

これで「テキスト」が保存されました。

1.4 テキストを編集する

ここで、テキストの内容を少し変えてみましょう。

1行目と4行目の「ＭＳＸＶｉｅｗ」と4行目の「ＭＳＸ　ｔｕｒｂｏ　Ｒ」は全角文字で入力されています。これを半角文字に変えます。

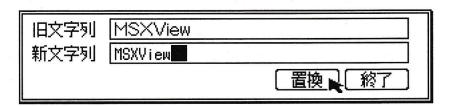
1.4.1 文字入力による編集

(1) マウスカーソルを「ＭＳＸ　ｔｕｒｂｏ　Ｒ」の先頭に合わせます。
(2) ドラッギングで「ＭＳＸ　ｔｕｒｂｏ　Ｒ」の末尾まで選択状態にします。

ewはＭＳＸ　ｔｕｒｂｏ　Ｒ専用に開発
・ユーザー・インターフェイス」です。
シェルを核として、全てのアプリケーシ

(3) GRAPH キーを押しながら K キーを押し、選択した文字を消去します。
(4) 「編集」の「半角」をクリックします。これで入力モードが半角になりました。
(5) 「MSX turbo R」と入力します。表示は反転しません。
(6) 「編集」の「全角」をクリックし、入力モードを全角に戻しておきます。

1.4.2 置換による編集

(1) 検索メニューの「置換（確認なし）」をクリックします。入力ウィンドウが表示されます。
(2) 旧文字列に「ＭＳＸＶｉｅｗ」と入力し確定します。
(3) マウスまたはカーソルキーで新文字列の入力エリアに文字カーソルを移動します。
(4) 新文字列に「ＭＳＸＶｉｅｗ」と入力し、CTRL キーを押したまま O を押して、半角文字に変換します。

(5) 「置換」をクリックします。文字が置き換えられます。置き換えが完了すると「見つかりませんでした」とメッセージを表示し、置換が終了します。

1.5 データの登録

ViewDRAWに組み込むデータを作成します。
まず、表題の「MSX View新登場」を登録します。

(1) ドラッギングを使って、「MSX View新登場」を選択状態にします。
(2) タイトルメニューから「登録」をクリックします。ファイルウィンドウが表示されます。
(3) Ｂドライブのアイコンをクリックします。必要に応じてディスクの入れ換えをします.
(4) ファイル名を「表題」と入力します。
(5) 「保存」をクリックします。選択した文字が共通データとして登録されます。

以上の手順で、サブタイトルと本文をそれぞれ「特徴」、「特徴本文」、「内容」、「内容本文」、「価格」のファイルを登録します。

1.6 ViewTEDの終了

これでテキストの編集は終わりです。テキストを更新したうえで、ViewTEDを終了します。

(1) タイトルメニューから「更新」をクリックします。ファイルが更新されます。
(2) もう一度「タイトル」バーをクリックします。「タイトル」バーが反転し、メニューが表示されます。
(3) 終了をクリックします。「終了してよろしいですか？」と表示されます。
(4) 「はい」をクリックします。VSHELLに戻ります。

Step 2　お店のマークを作成する

今度は、ViewDRAWを使ってロゴマークを作ります。
VSHELLから「道具」の「DRAW」をクリックし、ViewDRAWを起動します。

2.1　お店の名前を入力する

ViewDRAWでも文字の入力ができます。「ＭＩＮＡＭＩ　ＡＯＹＡＭＡ」というお店の名前を入力します。

(1)　テキストアイコンをクリックします。テキストアイコンが反転します。
(2)　文字の入力範囲を囲みます。画面の左上でクリックし、マウスを動かして右下でもう一度クリックします。入力範囲の左上で文字カーソルが点滅します。
(3)　「ＭＩＮＡＭＩ」と入力し、改行（リターン）します。
続けて「ＡＯＹＡＭＡ」と入力します。

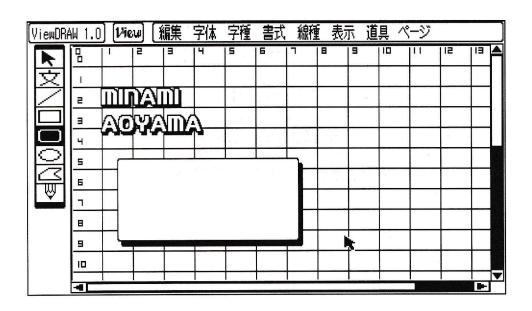
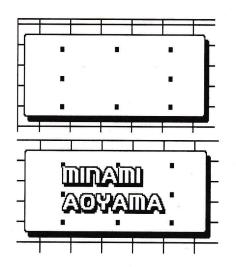
2.2　書体を変える

今、画面に表示されている文字は「標準字種」になっています。
これを、別の書体に変えてみましょう。

(1)　字種メニューの「NASA（16）」をクリックします。
(2)　字体メニューの「太字」をクリックします。
(3)　字体メニューの「影」をクリックします。
(4)　字体メニューの「輪郭」をクリックします。

2.3 ロゴのバックを作る。

今作ったロゴをのせるバックを作ります。後ではがきにレイアウトすることを考えて大きさを調整しましょう。

(1) R型四角形アイコンをクリックします。
(2) 左上の角でクリックします。そのまま枠線を右下に広げて大きさを調整し、クリックします。
この図形に影を付けます。
(3) 編集メニューの「複製」をクリックします。
今描いたR四角に少しずれた位置に同じ図形が表示されラバーバンドが付きます。
(4) 線種メニューのトーンから「ベタ塗」を選んでクリックします。
R四角が黒く塗り潰されます。
(5) 編集メニューから「後送」をクリックします。
白いR四角が前になり、影が付いたように見えます。
(6) セレクトアイコンをクリックします。
ラバーバンドの内側をクリックして、影の位置を調整します。

2.4 ロゴをバックにのせる

(1) セレクトツールでロゴを2回クリックします。
枠線が表示されたら、R四角の中に移動し、クリックします。
ロゴが消えてしまいますが、これはR四角の後に移動しただけで、図形がなくなってしまった訳ではありません。

(2) 編集メニューから「前出」をクリックします。文字がR四角の前に表示されます。

2.5 ロゴをまとめる

ロゴはでき上がりましたが、うっかり移動をして文字とバックのバランスを崩さないように、図形を合体させます。

(1) セレクトツールでベースのR四角を含むロゴ全体を囲みます。
まず左上でクリックします。枠線を右下に広げて囲み終わったらクリックします。
3つの図形にラバーバンドが付きます。

(2) 編集メニューから「合体」をクリックします。
ラバーバンド表示が1つになり、3つの図形は1つになりました。これで移動や変形の操作は3つの図形に同時に行なわれるようになります。

2.6 図形の保存

ここでいったん図形を保存して、休憩します。

(1) タイトルメニューから「保存」をクリックします。ファイルダイアログが表示されます。
(2) Bドライブアイコンをクリックします。必要に応じてディスクを入れ換えます。
(3) ファイル名を入力。「LOGO」とします。
(4) 「保存」をクリックします。図形がディスクに保存されます。
(5) タイトルメニューから「終了」をクリックします。「終了しますか？」と表示されます。
(6) 「はい」をクリックします。ViewDRAWの画面が消え、VSHELLの画面に戻ります。

Step 3　はがきへのレイアウト

休憩がすんだら、今まで作ったロゴやテキストをはがきサイズにレイアウトします。「道具」メニューから「DRAW」をクリックし、ViewDRAWを起動します。

3.1　プリンタの設定

使用するプリンタの設定をします。

この設定は1度実行すれば、次回MSXViewを起動したときにも記憶されています。

(1)「デスクアクセサリ」メニューから「プリンタ」をクリックします。
　設定ダイアログが表示されます。

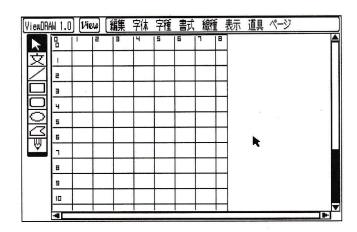
(2) 使用するプリンタに対応しているプリンタドライバを選んでダブルクリックします。
　対応は「VSHELL」マニュアルをご覧下さい。

(3) 設定が完了し、画面が元に戻ります。

3.2　用紙サイズを変える

(1) タイトルメニューから「印刷形式」をクリックします。
　設定ダイアログが表示されます。

(2)「はがき」をクリックします。
　「はがき」の左側の丸の中に黒丸が表示されます。

(3)「設定」をクリックします。
　画面の左側が白紙になり、はがきサイズの編集画面になります。

3.3 ロゴマークを読み込む

さっき作ったロゴをこの画面に読み込みます。

(1) タイトルメニューから「追加読込」をクリックします。
ファイルダイアログが表示されます。
(2) 「LOGO.DRW」をダブルクリックします。
ページダイアログが表示されます。
(3) 「1」をクリックします。
さきほど描いたロゴが表示されます。

3.4 テキストを読み込む

さきほどViewTEDで作ったテキストを別のページに組み込みます。

(1) ページメニューから「2」をクリックします。
ページが切り替わります。
(2) タイトルメニューから「組込」をクリックします。
ファイルダイアログが表示されます。
(3) 「表題.#TD」をダブルクリックします。
「MSXView新登場」の文字が表示され用紙サイズいっぱいのラバーバンドが表示されます。
(4) 編集メニューから「文字枠詰め」をクリックします。
文字の大きさにラバーバンドが表示されます。
(5) セレクトツールで文字をクリックし、画面の中央くらいに移動します。

同じようにほかのテキストも組み込んでいきます。
ところが、「文字枠詰め」はテキストの1行目だけを対象にしますので、2行以上のテキストがある場合にはラバーバンドをクリックして大きさを変更する必要があります。

(6) ラバーバンドの右下のマークをクリックします。
サイズを調整します。
(7) テキストの全てが表示される位置でクリックし、サイズを決定します。

3.5 ロゴのページにテキストを移す

全てのテキストを組み込んだら、1ページのロゴの下にテキストを移動します。

(1) 編集メニューから「総選択」をクリックします。
全てのテキストブロックにラバーバンドが付きます。

(2) 編集メニューから「切取」をクリックします。
テキストブロックが画面から消去され、コンピュータ内部に記憶されます。

(3) ページメニューから「1」をクリックします。
ロゴマークのある1ページが表示されます。

(4) 編集メニューから「貼込」をクリックします。
テキストブロックが表示されます。

(5) テキストブロックをクリックします。
枠線の位置を調整して、クリックします。

(6) 右ボタンをクリックします。
ラバーバンドが消え、位置が確定します。

3.6 テキストの書体を変える

テキストを見やすくするために書体を変えます。

(1) セレクトツールで「MSXView新登場」をクリックします。ラバーバンドが表示されます。

(2) 字体メニューの飾付から「太字」をクリックします。

(3) 字体メニューの飾付から「輪郭」をクリックします。

(4) 字体メニューのサイズから「14」をクリックします。

(5) セレクトツールで文字枠をクリックします。
位置を調整します。

MSXView新登場

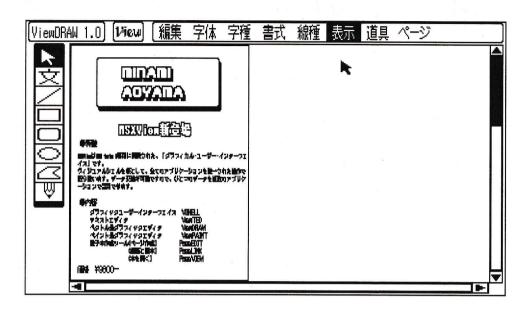
タイトル文字の書体が変わりました。
ほかの文字も同様の手順で見やすく工夫してください。

3.7 レイアウトを確認する

でき上がったレイアウトを確認します。

(1) 表示メニューから「レイアウト」をクリックします。
画面が消去され、縮小されたはがきのイメージが表示されます。

(2) 確認がすんだら右ボタンをクリックします。
表示が元に戻ります。

気に入ったレイアウトになるまで編集を繰り返してください。

3.8 保存

でき上がったダイレクトメールをディスクに保存します。

(1) タイトルメニューの「保存」をクリックします。
　ファイルダイアログが表示されます。
(2) Bドライブアイコンをクリックします。
　必要に応じてディスクを入れ換えます。
(3) ファイル名を入力。
　「DM」とします。

Step 4　印刷

でき上がったデータをプリンタに印字します。

(1)　「タイトル」メニューから「印刷」をクリックします。
　　印刷ダイアログが表示されます。
(2)　「1」ページから「1」ページまで「1」部の設定にします。
(3)　「印刷」をクリックします。
　　プリントアウトが開始されます。プリントが終了すると「タイトル」メニューの反転表示が元に戻ります。

以上でダイレクトメールが完成しました。
後は、はがきにコピーをとったり簡易印刷をしてください。

お問い合わせについて

弊社では厳重に梱包した上、細心の注意を払って製品を発送しております。万一、輸送上のトラブルが起こった場合にはご一報いただければ新しいものと交換いたします。

マニュアル作成にあたり、なるべく詳細な説明をするように心がけたつもりですが、理解できないところは、実際にコンピュータと向き合って納得のゆくまで確かめてください。また、他のページを参照するのもひとつの方法です。それでも疑問点が解決できないときは、購入された販売店に問い合わせるか、株式会社アスキー　ユーザーサポート（直通電話　03-498-0299）までお電話いただければ、係りがお答えいたします。しかしながら、回線が混み合いご迷惑をかけることもありますので、なるべくお手紙にてお願いいたします。その際には、下記の要領で記入してください。記入されていない項目がひとつでもありますと、解答できかねる場合があります。十分注意してください。

また、本製品以外に対してのご意見、ご希望がありましたら、弊社までお寄せください。

【記】

1. 送付先

〒107-24 東京都港区南青山6-11-1　スリーエフ南青山ビル
株式会社アスキー　ユーザーサポート係

TEL.　03-498-0299
（祝祭日を除く月～金曜日、10:00～12:00, 13:00～17:00）

2. 必要事項

(a) お客様の氏名、住所（郵便番号）、電話番号（市外局番も含む）

(b) 製品名、製品シリアル番号、ユーザーID番号

(c) 機器構成

本体装置名
CRT装置名、フロッピーディスク装置名
プリンタ装置名
その他I/O、I/F装置名

(d) お問い合わせ内容

お問い合わせの内容は、できるだけ製品のマニュアルに記載されている用語を用いて、具体的かつ明確に記述してください。なお、障害と思われる現象については、その現象を再現可能な情報が必要です。当社で再現できないものは、調査ができません。その現象が発生するまでの操作手順、データを必ず添付してください。データディスクがある場合は、そのコピーも同封していただくと調査がスピーディになります。

MSXView　アプリケーションマニュアル

1990年12月1日　第1版第1刷

編集　　株式会社アスキー　システム事業部

　　　　担当　三島　淳、松本　有子

発行所　株式会社アスキー

　　　　〒107-24　東京都港区南青山6-11-1　スリーエフ南青山ビル

印刷　　三共グラビヤ印刷株式会社

MSX turbo R
MSX View
アプリケーションマニュアル